

赤字：第3回委員会意見対応

青字：事務局による加筆・修正等

セントラルパーク基本計画（案）

第一部

目 次

第Ⅰ章 計画の前提	1
1. 目的	1
2. 対象エリア	2
第Ⅱ章 基本方針	3
1. 基本構想における基本理念と基本的な方向性	3
(1) 基本理念	3
(2) 基本的な方向性	3
2. 基本方針	4
第Ⅲ章 利活用計画	5
1. 基本的な考え方	5
(1) 利用者像	5
(2) 利活用のキーワード	6
(3) 利活用のイメージモデル	6
2. 利活用イメージの展開	18
(1) ゾーニング	18
(2) 主要な動線	21
(3) 主要な施設	22
(4) 利活用方針図	24
3. 利活用推進計画	26
(1) ソフト展開の方向性	26
(2) 企画運営の基本的事項	27
(3) エリアごとの企画運営目標	30
(4) 両公園を巡る利用プログラム	36
4. 官民共働の公園づくり	40
(1) 市民共働の運営体制づくり	40
(2) 民間活力による財源確保と魅力づくり	43
(3) まちづくりとの連携	44
5. 災害時における公園の役割	45

第Ⅳ章 再整備計画	50
1. 基本的な考え方	50
2. 周辺地域の整備の方向性	51
3. エリア整備計画	54
(1) 大濠公園北側	55
(2) くじら公園～三ノ丸広場	57
(3) 舞鶴中学校跡地・城内住宅	60
(4) 舞鶴公園線沿線	63
(5) 福岡城本丸・二ノ丸周辺	66
(6) 鴻臚館跡	69
(7) 福岡高等裁判所	72
(8) 福岡市美術館・日本庭園	75
4. 全体平面図	78
5. セントラルパーク構想における将来像のイメージ	79

第 I 章 計画の前提

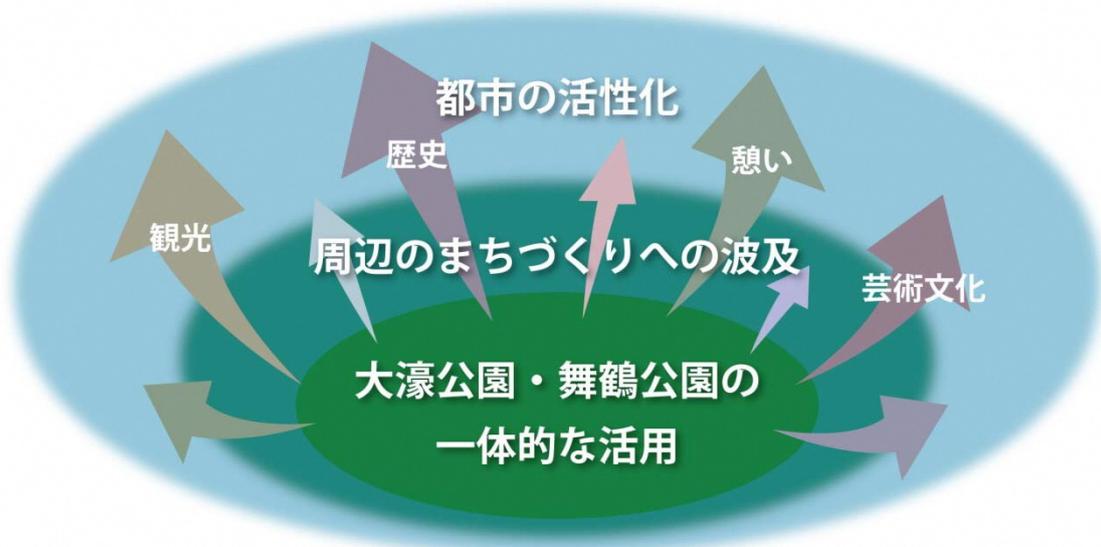
1. 目的

大濠公園は豊かな水辺と美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化に触れ合える空間であり、水辺一帯が近代の国登録記念物となっています。一方、舞鶴公園は古代の国史跡「鴻臚館跡」、近世の国史跡「福岡城跡」などの歴史に触れ合うことができ、季節ごとに彩られる木々の魅力を感じることができます。大濠公園・舞鶴公園は都心部に近接する貴重なオープンスペースであり、それぞれが多様な魅力を持った公園として、これまで多くの県民・市民に親しまれてきました。

平成 26 年 6 月には、大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用を図り、県民・市民の憩いの場として、歴史・芸術文化・観光の発信拠点として、公園そのものが広大なミュージアム空間となり、人々に感動を与えるような公園づくりを目指すため、「セントラルパーク構想」を策定しました。

本計画は、「セントラルパーク構想」に基づき、大濠公園と舞鶴公園を一体的に活用することによって、基本理念「時をわたり、人をつなごう ～未来へつながる福岡のシンボルへ～」を実現するための具体的な方策を明らかにするものです。

多くの県民・市民に親しまれてきたそれぞれの公園の持つ魅力を守り育てながら、機能や動線、管理運営を一体的に捉え、ハードとソフトの両面から一体的な活用を図ることで両公園の魅力をさらに高め、都市の活性化を目指します。



図：両公園の一体的な活用による都市の活性化イメージ

2. 対象エリア

本計画は、大濠公園と舞鶴公園を対象とします。

なお、西公園や南公園、天神や大名、六本松などの周辺地域との緑のつながりや機能連携なども考慮する必要があるため、周辺に視野を広げた取り組みも含めて検討します。



図：対象エリア

第Ⅱ章 基本方針

1. 基本構想における基本理念と基本的な方向性

「セントラルパーク構想」では、基本理念と基本的な方向性が以下の通り掲げられています。

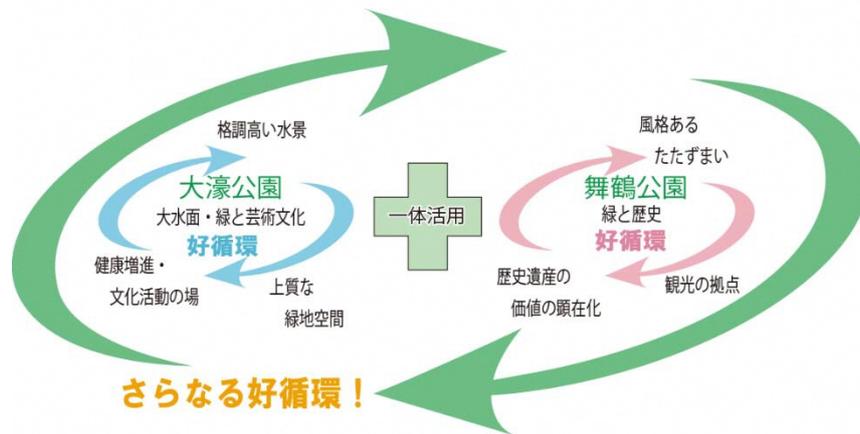
(1) 基本理念

福岡を代表する個性を有する二つの公園を一体的に活用することによって、時・人・まちをつなぎ、福岡の都市と文化を物語る場所となることを目指し

時をわたり、人をつなごう。
～未来へつながる福岡のシンボルへ～

を基本理念として掲げます。

大濠公園と舞鶴公園が持つそれぞれの個性を磨き上げるとともに、二つの公園の一体的な活用を図ることによってさらなる好循環を生み出し、都市の活性化につなげていきます。



(2) 基本的な方向性

本計画に求められている課題を解決し、福岡の都市の個性と文化を物語る場所となるよう、基本的な方向性を次のように設定します。

- 大濠公園・舞鶴公園一帯の空間をつなぎ、一体感のある緑地空間づくり
- 福岡にしかない重層的な歴史資源を活かし、福岡二千年の時をたどる空間づくり
- 観光集客機能の向上によるにぎわいをつくり、都市の活性化につなげる拠点づくり
- 「まちの公園」から「公園のまち」へ展開し、みんなで育てる公園づくり

2. 基本方針

大濠公園と舞鶴公園にはいたるところに、みどり、歴史、芸術文化の魅力あふれる資源があります。また、周辺ではビルの建て替え等、開発が進んでおり、人口・観光客数ともに増加している状況から、両公園の利活用に対する期待感も高まっています。

一方、これまでの公園整備では、まずハード整備の検討を行い、次にその空間に対しての運営管理を検討し、来訪者の利活用は最後に結果としてついてくるものだと考えられてきました。

本計画では、セントラルパーク構想における基本理念と基本的な方向性にに基づき、両公園の魅力あふれる資源を最大限に活用することで、県民・市民・観光客による様々な利活用を推進することを第一に捉えます。その上で、利活用の基盤となるハード整備の在り方を定めることとします。

セントラルパーク構想



セントラルパーク基本計画

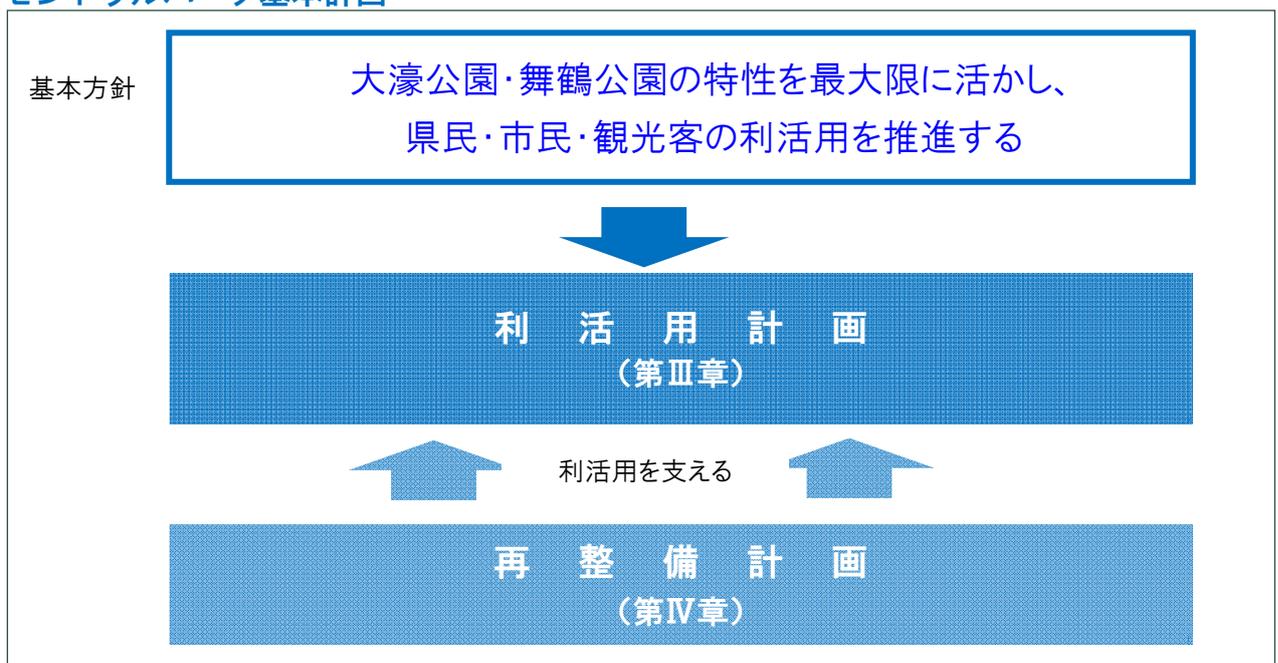


図 計画の構成

第Ⅲ章 利活用計画

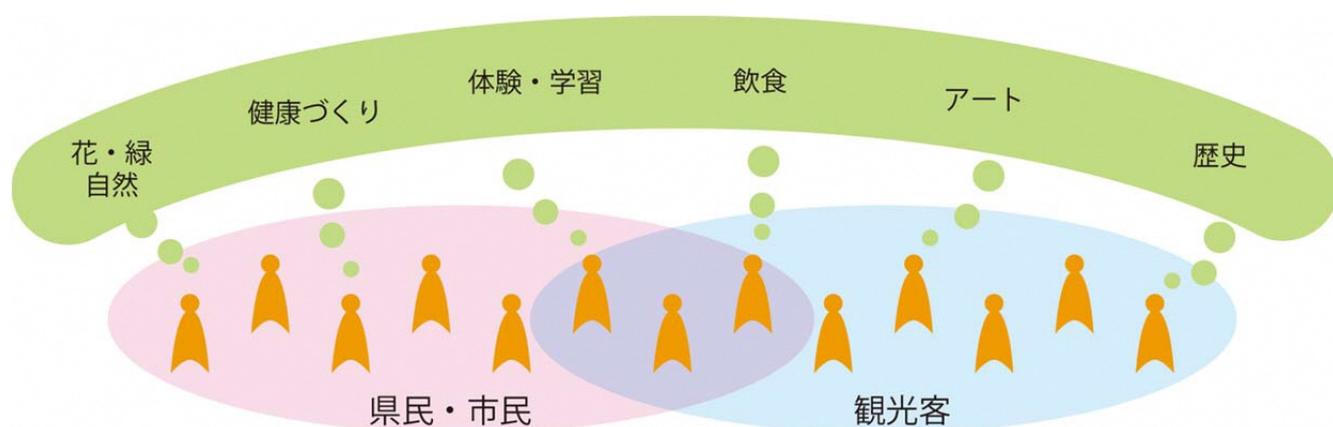
1. 基本的な考え方

(1) 利用者像

本計画では、両公園の持つ魅力を最大限活用し、閑散期も含めて一年を通してにぎわいが感じられる公園としていくため、県民・市民と観光客という大きく二つの利用者像を設定します。

県民・市民に対しては、憩いの空間としての拠点化を目指し、都心部に隣接する立地の中での貴重なみどりやオープンスペースとしての活用を推進します。

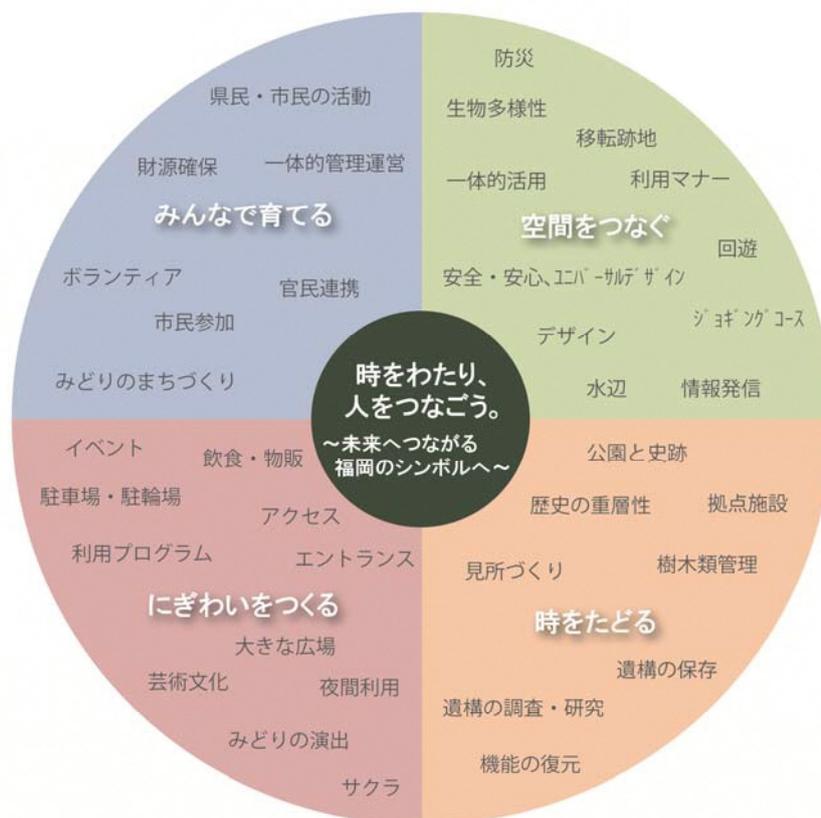
観光客に対しては、集客・観光の拠点化を目指し、歴史や芸術文化などの「ここにしかない魅力」を活かした活用を推進します。



図：利用者ニーズの想定イメージ（仮）

(2) 利活用のキーワード

大濠公園と舞鶴公園の今後の利活用の促進に向けたキーワードを、4つの基本的な方向性毎に整理します。



図：利活用のキーワード

(3) 利活用イメージモデル

両公園の利用者像と利活用のキーワードを踏まえ、具体的にはどのような人々に対して、どのようなキーワードを利活用へと反映していくのか、計画期間にとどまらない将来の利活用イメージを11の視点から次頁に示します。

また、利活用イメージを実現していくために検討すべき項目を合わせて整理します。

モデル①

■利用者： 公園の近くに住む親子

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

利用者に愛される公園

- ・ 思えば、物心ついたときから大濠公園・舞鶴公園は私の遊び場だった。祖父の散歩についてきては、日が暮れるまで園内を走りまわっていた記憶がある。
- ・ そして夕暮れ時に、二人でベンチに腰掛け、水辺を見ながら**様々な野鳥**の名前を教えてもらったり、**植物や虫**の名前を教えてもらったりしたものだった。
- ・ あれから私は父となり、小さな2人の子どもを連れて、相変わらずこの場所に通っている。
- ・ 今子どもたちと一緒に座っているベンチは、**昔祖父とよく座った場所に、子どもが生まれた年に寄付した**ものだ。ベンチには子どもの生年月日を刻印してもらっている。将来孫が生まれたら、自分と子どもと孫と一緒に座りたい。
- ・ この公園は子供からお年寄りまで誰にでも快適に利用できるようデザインが工夫されているため、私はずっと通い続けるだろう。
- ・ 祖父はセントラルパークが私たちにとって**憩いの場**になっているだけでなく、**災害時の避難場所**になっていることも教えてくれた。今は私が子どもたちに、災害があったときにはここに逃げるように、と教えている。
- ・ 私が祖父にそうしてもらったように、子どもたちにとって、ここが大人になっても大切な場所であるように、たくさんの思い出をつくってあげたい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 生物多様性の保全
- ・ 公園に対する愛着を醸成する仕組み
- ・ 利用者が寄付などによって公園運営に貢献できる仕組み
- ・ **ユニバーサルデザインの推進**
- ・ 広域避難場所としての周知や機能確保

モデル②

■利用者： 車でピクニックに訪れた家族連れ

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

休日を過ごしたくなる憩いの場

- ・ 連休を利用して、朝から家族4人でセントラルパークにピクニックにやってきた。
- ・ 車で公園に近づくにつれて、**道沿いの緑が増え、店舗は統一感のあるおしゃれな外観**で揃えられている。さらに進むと、豊かな緑や史跡の風景が見え、その脇に公園の入口が見えてきた。
- ・ 入口に近づくと、駐車場への誘導サインがすぐに目に入った。満車で入庫待ちを予想していたが、スムーズに停めることができた。**十分な駐車スペース**は、小さな子どもがいて荷物が多い家族にはとてもありがたい。
- ・ 車を降りると、**花や緑で彩られた園路**が続いており、花壇では**ボランティア**と思われる人たちが楽しそうに手入れをしている。花が大好きな娘と一緒に花を植えてみたいようだ。
- ・ 以前は住宅が建っていたという**広場**に着くと、連休とあって**多くの人でにぎわっている**。読書をする女性、走りまわっている子どもたち、楽器の練習をしている学生と、みな思い思いの時間を過ごしている。
- ・ 私たちもさっそく**美しく管理された芝生の上でお弁当を広げ、大濠公園の水面や福岡城の石垣の風景を楽しみながら食事**することにした。豊かな自然の中で、歴史の雰囲気を感じながらのんびりしていると、福岡の都心にいるということを忘れてしまいそうになった。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 周辺地域と連携した緑化推進
- ・ 街並みや建物の低層部の用途誘導
- ・ 車両にもわかりやすいエントランスの整備
- ・ 適切な駐車台数の確保
- ・ 季節感を楽しむことができる花々の演出
- ・ 施設移転跡地の広場活用
- ・ 石垣や水面への見通しの確保
- ・ **みどりや芝生の適切な管理**

モデル③

■利用者： ボランティア

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

ボランティアの舞台

- ・今日は花壇の植え替えを行うために、セントラルパークにやってきた。私は**ボランティア組織**「(仮称) セントラルパークを育てる会」のメンバーとして、活動している。
- ・以前から大濠公園・舞鶴公園では、それぞれボランティアが組織されていたが、数年前に**二つの公園が一貫した管理運営**が行われるようになったことをきっかけに、**ボランティアも一つの組織として統一**されることとなった。
- ・もちろん、それぞれのボランティア活動は継続されつつ、今日の花壇の手入れのように、**両公園で一貫した活動**も行われるようになった。おかげで、花壇などは景観的にも統一感があるように感じられ、来園者も季節ごとの変化を楽しんでもらっているようだ。
- ・公園管理者や公園内施設関係者、ボランティアなどの**連絡体制も整理**されたため、**色々な組織と連携した活動**も充実している。
- ・また、私たち**ボランティアの活動拠点**も公園内にできたので、着替えや活動の準備だけでなく、日常的な連絡事項の確認や情報共有もスムーズにできるようになった。
- ・施設の整備や共通の活動のおかげで、ボランティア同士の**交流**も増え、最近**は組織としての一体感**も出てきたように感じる。
- ・これからも活動を通して、ボランティア同士の交流を深めながら、セントラルパークの環境を育んでいきたい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・両公園で連携した管理運営体制の確立
- ・両公園の様々な関係者間での連絡体制の整理
- ・ボランティア活動の拠点となる施設の整備
- ・組織間での連携が行いやすい環境づくり

モデル④

■利用者： 周辺の小学校教員

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

都心部の生き物の大きな家

- ・セントラルパークは都心部の中で豊かな水と緑があるため、**様々な生物と触れ合うことができる貴重な場所**だ。
- ・そのため、**総合学習**の一環として周辺の学校の多くがセントラルパークに訪れている。
- ・私が勤めている学校でも毎年訪れており、生徒達も恒例の授業として楽しみにしている。
- ・最近、管理運営の一環として、**生物多様性の保全と来園者が自然とふれあえる環境づくり**が盛んに行われるようになってから、鳥の増加や多様な植生が見られるようになっていいる。また、生物の専門家のボランティアガイドの方々が生徒達に様々な生物の生態などについて教えてくれるプログラムも設けられている。
- ・生徒達に特に人気があるのは**水辺を活用**した観察プログラムだ。都心部では珍しく**安全に水辺に近づく**ことができ、普段は間近で見ることができない動物や植物を観察することができるため、生徒達は目を輝かせて参加している。
- ・他にも、**季節の植物**を楽しむ観察プログラムや珍しい植物、大木・古木などの植物に関わるプログラムも豊富にあり、プログラムごとに様々な自然の魅力を伝えてくれる。
- ・セントラルパークが都心部で自然にふれあえる貴重な場所であり続け、その魅力を維持・向上して行くことが子ども達の成長につながると考えると、公園や周囲の環境保全に貢献していきたいと感じる。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ボランティアガイドが活動しやすい環境づくり
- ・生物の生育環境の保存と向上
- ・公園の特性や参加者のニーズに合わせた利用プログラムの増加
- ・水辺を活用したイベントやプログラムの増加

モデル⑤

■利用者： 仕事帰りのジョガー

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

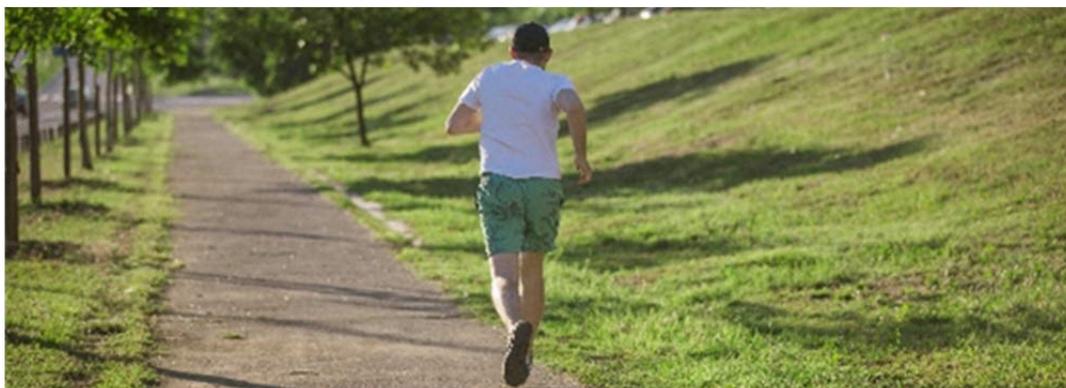
にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

ジョギングの聖地

- ・19時。いつものように、スーツからランニングウェアに着替え、コースに出る。運動不足解消のため、**仕事終わりにセントラルパークをジョギング**したのが始まりだった。
- ・公園内には**ランニングステーション**があり、ロッカーはもちろんシャワーも完備してあるので、仕事終わりにスーツ姿で直行できるのがとてもいい。
- ・大濠公園は以前からジョギングやウォーキングをする人が多かったが、**舞鶴公園も含めたコース**が作られてから、さらに利用する人が増えた。コースが広がったことで、**緑の風景、水辺の風景、歴史の風景**と様々な風景を楽しむことができ、飽きずに気分良く走れることが理由の一つだろう。
- ・もう一つの理由は**安心して走れる**ということだ。ここは、歩行者、ジョギング、ペット、自転車と様々な人が利用しているが、舗装や路面表示など**利用者に応じたコース作り**が徹底されていて、結果的に**マナーも守られている**というわけである。また、園内は**ライトアップ**もされていて、**女性や高齢者も安心**して利用できるため、夜間の利用者も多い。
- ・さらに、ジョガーの間で人気に火をつけたのが、**周辺にあるスポーツショップ**である。お洒落で機能的なウェアやアイテムを身に着け、この場所で体を動かすということが**ブランド化**してきている。
- ・最近では、体力もついてきたため、**休日には西公園や南公園方面まで走る**ようになった。西公園や南公園までをつなぐ通りは歩きやすく、緑にあふれ、**立ち並ぶ店舗も公園の雰囲気**に合ったお店が多くなった。
- ・自分自身の健康のために始めたことが、今やセントラルパークのブランドを形作っていると思うと、今後もさらに気分よく走れそうだ。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ランニングステーションなどの便益施設の設置
- ・舞鶴公園のジョギングコースの設置、動線の一体化
- ・利用者ニーズと安全性に配慮したコース設定
- ・公園周辺の施設との連携
- ・公園のブランド化
- ・周辺との緑のつながりの確保

モデル⑥

■利用者： 歴史好きの来訪者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

古代より連なる福岡の歴史舞台

- ・ 1泊2日の妻との福岡旅行は、福岡の歴史を巡る旅がテーマである。
- ・ 昨日は太宰府市の古代の史跡と、朝倉市の秋月城下町を巡った。今日は**博多や天神の黒田家ゆかりのコース**を歩き、**福岡の歴史のシンボルである鴻臚館跡と福岡城跡**に向かう。
- ・ 宿泊していた**都心部**の高層ホテルから眺める福岡の街並みは、水と緑であふれており、大濠公園・舞鶴公園へは**歩いていく**ことにした。
- ・ 舞鶴公園までやってくると、**ガイドンス施設**があったので、まずは概要を知ることにした。施設内の展示物や地図には、**鴻臚館跡と福岡城跡それぞれの歴史や、周辺の関連史跡との歴史的なつながり**がわかりやすく解説されている。古代には鴻臚館と大宰府を結んでいた官道があったと知り、その時代の姿に思いを馳せた。**黒田家とその分家が拠点としていた福岡城と秋月城**の関係も興味深い。
- ・ 私たちはガイドンス施設で**ボランティアガイドの人に案内**を頼むことにして、**複数あるプログラム**の中から、目的に合った、鴻臚館跡・福岡城跡双方の歴史を学べるものを選んだ。
- ・ ガイドの人の説明を聞きながら、鴻臚館跡の復元整備や福岡城跡の石垣などのポイントを見ていくと、この地にある**歴史の重層性**が分かり福岡という地のおもしろさを感じた。
- ・ 一通り見て回ったあと、**園内の休憩所**で昼食をとることにした。休憩所では**鴻臚館跡と福岡城跡の両方を見ながら食事**をすることができ、私は当時の人々の様子に思いを馳せながら、妻はおいしい食事に感動しながら、互いに満足した時間となった。
- ・ ガーデニングが好きな妻は、公園内の樹木がよく手入れされていることにも感心していた。私たちが各施設に支払った料金で手入れの行き届いた環境が保たれているようだ。
- ・ 食事の後は、**家族にお土産**も買うことができ、福岡旅行の最高の締めくくりとなった。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 周辺の歴史資源との連携
- ・ ガイドンス施設の設置
- ・ 歴史の重要性を感じる復元整備
- ・ 利用プログラムの充実
- ・ シンボルとしての遺構の復元
- ・ 櫓や石垣などの見所の魅力向上
- ・ 施設利用料金の徴収
- ・ 飲食、物販などの便益施設の検討
- ・ 公園周辺から連続的に**散策**、回遊できる空間形成

モデル⑦

■利用者： 県外からアート作品巡りに訪れた人

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

アート巡りの拠点

- ・日本の芸術や文化に興味があり、美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設が集まっていることで有名なセントラルパークに、休みを利用して一人訪れた。
- ・福岡空港や博多駅などの交通拠点から、地下鉄一本で最寄駅まで行くこともできるが、今回は天神駅で降りて、ショッピングを楽しみながら歩いて向かうことにした。
- ・天神駅から公園に向かう途中にはギャラリーやセレクトショップが多く、セントラルパークを中心として**まち全体からアートの雰囲気**を感じる。公園に近づいてくると**緑豊かな景色**が広がり、**公園内を巡りたくなる**気持ちが高まる。
- ・私の場合、各施設の情報や見所について、英語のホームページで事前に調べていたので特に不安はなかったが、園内には総合案内板をはじめ、**随所に丁寧な案内**がなされているので、初めてきた人も安心するだろう。
- ・公園の総合管理事務所で受け取った、**芸術文化をテーマとするパンフレット**を見ると、そこに書かれた**コース**に沿っていけば、様々なアート作品に出会えるようになっている。このような案内があると、作品を見落とししてしまうことがないので、とてもありがたい。
- ・日本庭園に入って、庭を眺めながら抹茶と和菓子をいただき、**日本文化について考えるいい機会**となった。
- ・また、**園路沿いの小さな広場**では、大道芸や楽器演奏などの**小規模なアートイベント**が行われており、公園に遊びに来ていた**子どもたちは**、食い入るように眺めている。小さな頃から**身近でアートに触れ合える環境**があるのは素晴らしいことだと思う。
- ・セントラルパークを**楽しんだ後**は、バスで**福岡市博物館に行く**予定だったけれど、公園の中にいるような福岡の街の景色を楽しみながら引き続き歩くことにしよう。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・芸術文化に関わる施設の強化
- ・公共交通からのアクセス向上
- ・エントランス部の魅力の向上
- ・テーマごとの散策コース設定
- ・日本庭園の認知度向上
- ・小規模イベントが行える広場の確保
- ・情報発信の強化
- ・公園内のわかりやすい情報案内
- ・合同管理事務所の設置
- ・芸術文化施設の広域的な連携の強化

モデル⑧

■利用者： 海外からの観光客

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

アジアを代表する観光地

- ・夏休みの家族旅行で福岡を訪れている。前にも一度、団体ツアーで訪れたことがあるが、**自然も文化も豊かな福岡の街**が忘れられず、今回は家族だけで再訪問することにした。
- ・天神からバスに乗り大濠公園舞鶴公園に着いた。前に訪れた時は、**大型バス用の広い駐車場**から公園に入ったが、今回はまち歩きを楽しみながら歩いて公園に訪れた。公園内は**水と緑が豊か**で美しく、**建造物のデザインにも統一感**があって、福岡の人がこの両公園を愛していることが、デザインからも見てとれる。
- ・公園内のサインが**多言語**で書かれていたり、**多言語表記**に対応したデジタルサイネージが設置され、私たちのような海外からの観光客にもわかりやすいのありがたい。
- ・公園の見所の一つである**鴻臚館跡**では、遠い昔に大陸から訪れた客人が、ここでどのように迎え入れられたか、歴史をたどることができる。語学だけでなく歴史にも通じた**通訳ガイド**に案内を頼むこともでき、この場所の歴史だけでなく、母国との関わりまでより深く理解することができた。**各ポイントには絵や図で説明された解説が設置され、古代の風景をイメージしながら現在の風景と比較**すると、アジアの先進都市である福岡の歴史の深さを感じた。
- ・園内では**Wi-fi**が整備されているのはもちろん、ビューポイントには史跡に配慮してカメラ台が置かれていて、リアルタイムで母国にいる知り合いにその様子を楽しんでいる自分の姿を伝えることができた。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・外国人観光客の誘致と利便性の向上
- ・大型バス駐車場の確保
- ・建造物のデザインの統一
- ・鴻臚館跡の機能復元
- ・多言語表記やピクトグラム等による外国人観光客への情報提供
- ・当時の様子を彷彿とさせる解説サインの設置

モデル⑨

■利用者： イベント企画者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

福岡でのイベントならセントラルパーク

- ・近年、福岡で大規模イベントを開催するならセントラルパークで、というのが企画・運営関係者の間で通例になっている。
- ・その理由は、立地も良くイベントしやすい環境が整っていることにある。福岡の都心で大規模イベントできるスペースが増えたことに加え、交通拠点からアクセスしやすく、さらに跡地を利用した広場で、自然や歴史の雰囲気に触れながら、にぎわいイベントを楽しめるとあって、イベント参加者からの評価が高いからだ。
- ・最近では、天神や博多エリア、護国神社で行われていた既存のイベントと連携する機会が増えており、新しく生まれ変わった六本松エリアとは、特に連携する機会が多くなった。
- ・フリーペーパーや雑誌などのメディアを活用した頻度の高い広報や、イベント企画者と公園管理者の協働により、受入れ人数の増加や新たなターゲットの確保、プログラムの充実が図られ、経済効果も大きくなっていると、他県からの問い合わせも増えている。
- ・これらの協働の積み重ねによってセントラルパークの知名度も上がり、今では観光・集客資源として、福岡の活性化の一翼を担っている。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・交通拠点からのアクセス向上
- ・様々なイベントに対応できる広場空間の整備
- ・イベントをしやすい仕組みづくり
- ・イベント企画者と公園管理者の連携
- ・周辺地域との連携

モデル⑩

■利用者： 周辺のヨガスタジオ経営者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

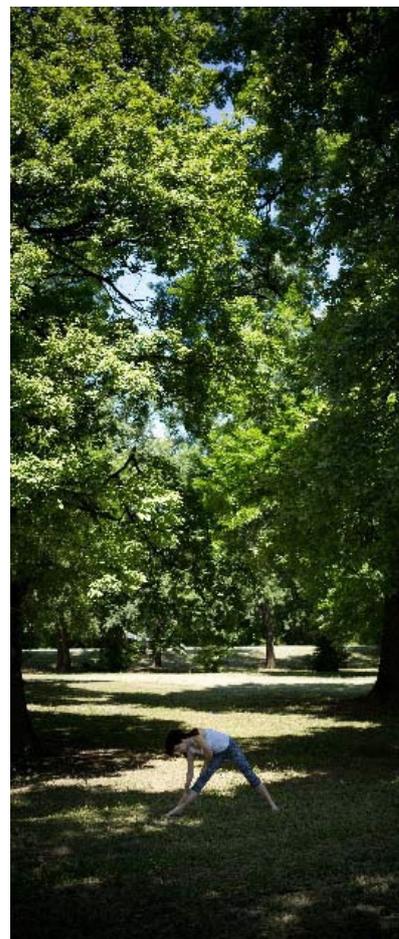
にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

企業連携のステージ

- ・私は大濠公園・舞鶴公園の周辺でヨガスタジオを経営している。経営を始めた頃はマンションの1室を使用した小さなスタジオだったが、今ではビルの1フロアの広さになりヨガウェアなどを扱うショップも併設した、福岡でも有数の大きなスタジオになった。
- ・スタジオの生徒数が増えたのは、大濠公園・舞鶴公園がきれいになって、大手門側からも**アクセスしやすくなり**、公園への人の流れが増えたからだと思う。
- ・スポーツショップやジョギングステーションなど、**公園の機能と一体となった店舗が公園周辺部で増加**しているのも同じ理由だろう。
- ・何年前前から、**公園内で野外レッスン**も行うようになり、広い緑の芝生のうえで行うヨガはとても気持ちがいいと、特に若い女性に人気だ。
- ・生徒以外でも公園内でヨガをする人たちが、ウェアやマットを買いにくるので、ショップもにぎわっている。
- ・という訳で、セントラルパークにはとても魅力を感じているため、数年前から**公園に寄付**をし始めた。寄付金の一部が、私たちがヨガを行っている**広場の管理**に使われていると思うと、**寄付しがいがある**。
- ・ショップカードや私の名刺には、寄付をした特典として、**セントラルパークのロゴ**が入っているので、初めて会う人との話の種になって助かることもしばしばある。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・公園の魅力を活用した周辺企業との関わり強化
- ・利用者が活動しやすい芝生広場の確保
- ・周辺企業と連携したイベントの実施
- ・企業からの寄付などを初めとした公園運営の仕組みづくり

モデル⑪

■利用者： 周辺の土地所有者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

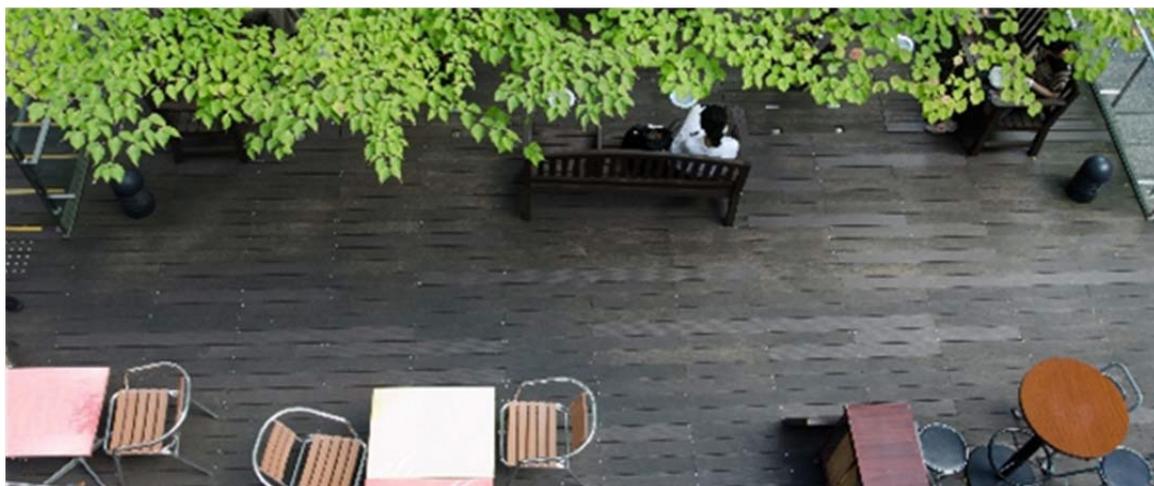
にぎわいをつくる

みんなで育てる

■将来の利活用イメージ

魅力づくりに貢献したくなる公園

- ・お堀沿いの道を歩くと、いつも公園に立ち寄りたいたいという気持ちになる。光を反射した水面に木々が影を写し、夏には蓮の花が咲き、訪れた人の撮影スポットとなっている。
- ・私がオーナーであるセントラルパーク沿いのビルには、テナントとしてカフェが入っている。カフェにはテラス席があり、水や緑、史跡の雰囲気を感じながら食事を楽しめるため、テラス席を予約するお客さんが多い。
- ・このように、明治通りに並ぶ店舗やオフィス、周辺の住宅地などは、立地をうまく活用した建物が多い。大きな公園に近く、窓から水と緑の風景を楽しむことができる環境は、商業施設はもちろんオフィスや住宅の環境としても魅力的だ。
- ・セントラルパークにはファンドレーザという寄付金を回収する専門家の存在があり、私のような土地所有者や企業、個人などが寄付を積極的に行っている。
- ・私は手入れの行き届いた美しい公園の景色を眺めると、寄付金が適切に使われているといつも実感する。セントラルパークが魅力的であるほど私が持っているビルも含めた周辺の地価が上がり、ひいては福岡のまちの活性化に貢献していることを考えると、寄付は投資のような側面も持っている。
- ・寄付の金額によって、セントラルパークの定期通信やイベントへの特別招待、オリジナルグッズの限定販売など、様々な特典を受けられるのも寄付のしがいがある。
- ・これからも、周辺に住まう私たちにとっても、ゆとりのある環境であり続けてほしい。



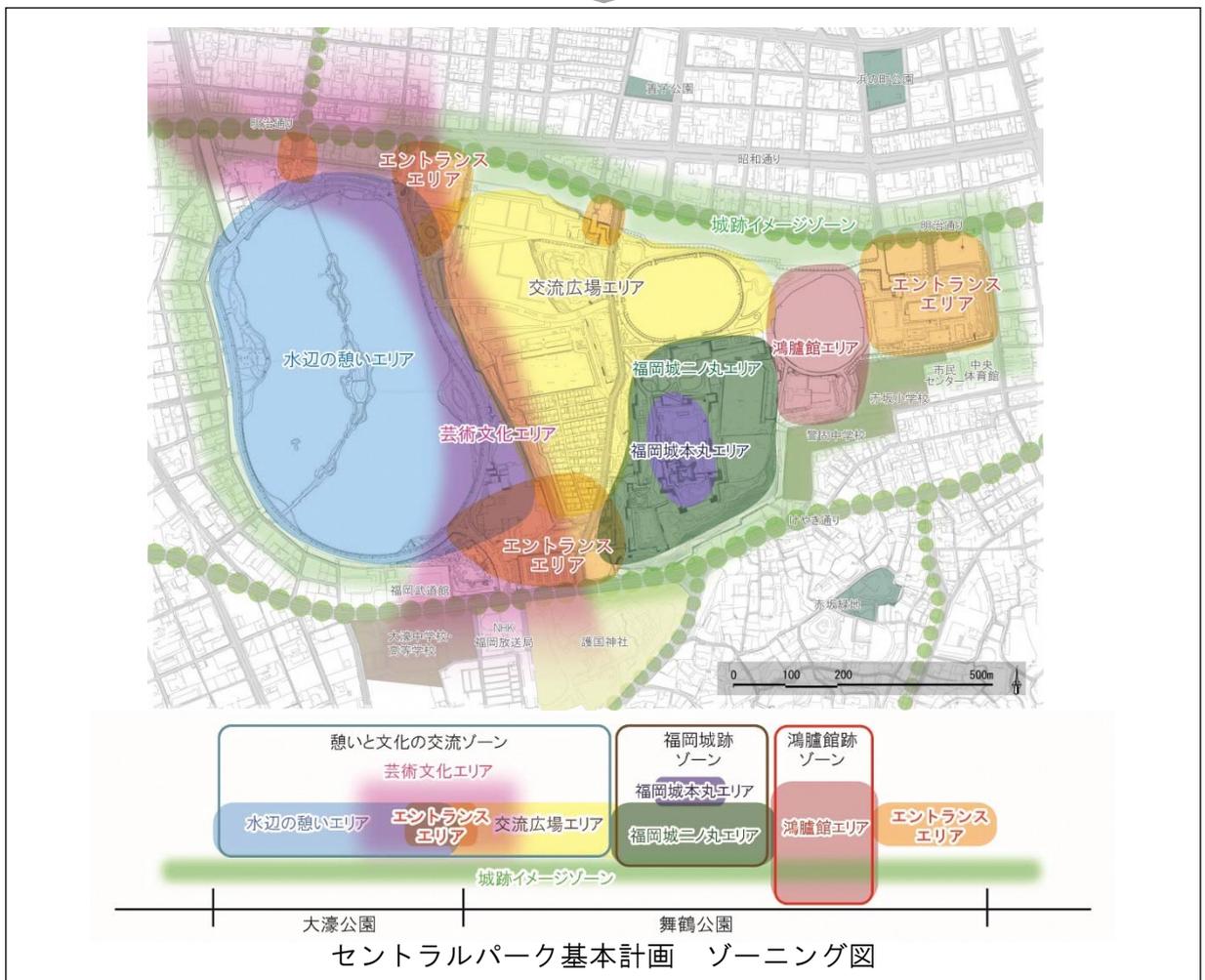
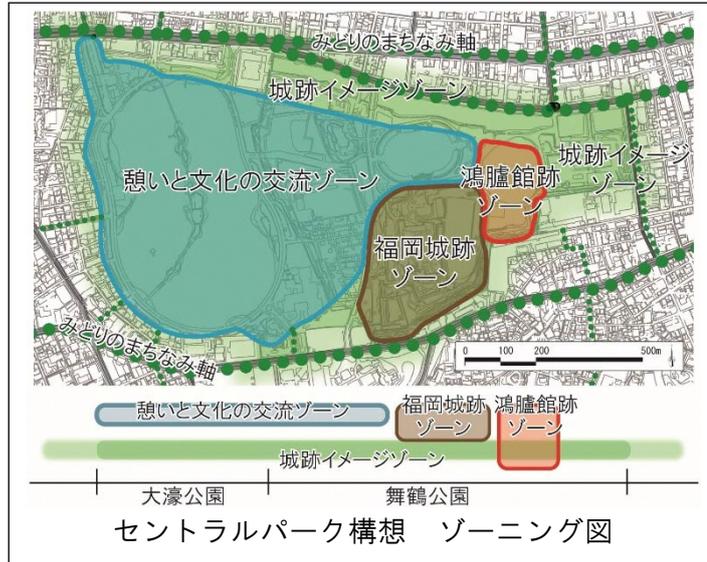
■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・沿道から魅力を感じられる空間づくり
- ・公園の魅力の波及範囲の拡大
- ・水質の向上
- ・寄付をはじめとした公園運営に関わる専門家の配置
- ・公園及び周辺の資産価値の向上

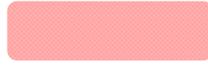
2. 利活用イメージの展開

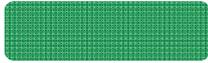
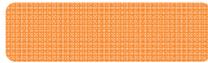
(1) ゾーニング

周辺地域との関係性や両公園における課題（第二部 P106「4. 課題の整理」参照）及びセントラルパーク構想における基本的な方向性を踏まえ、場所ごとの特性に応じてセントラルパーク構想で示したゾーニングを細分化します。



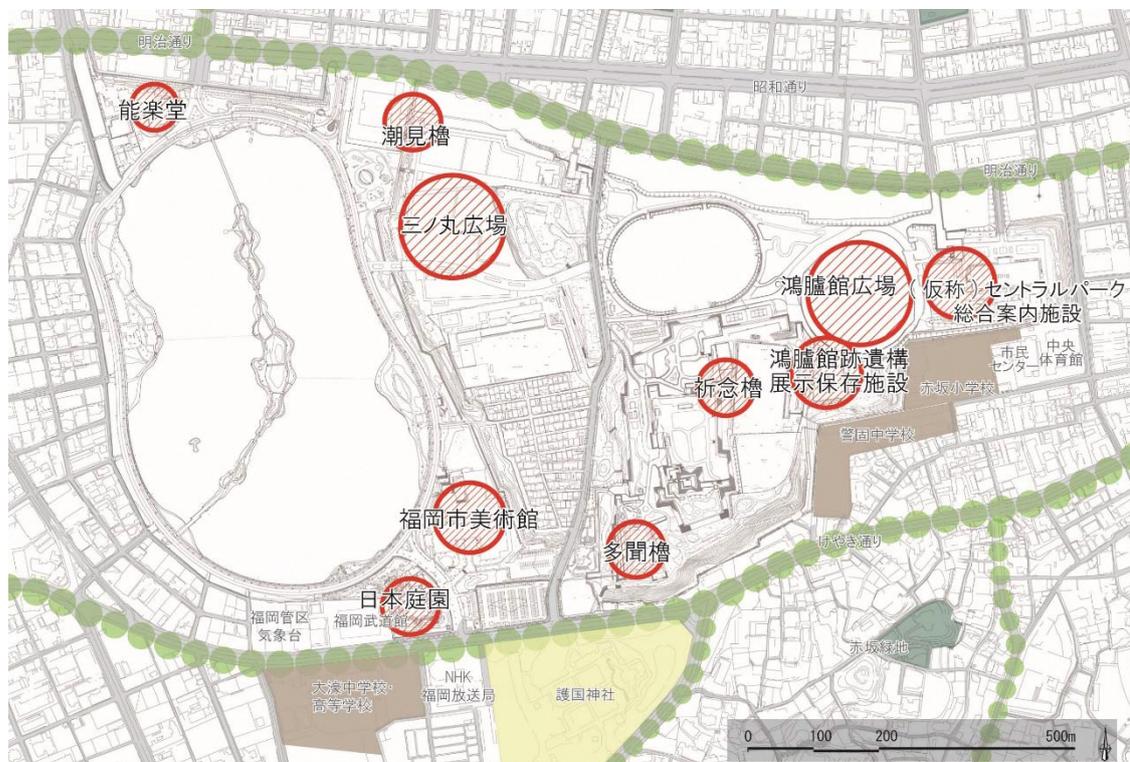
各ゾーンやエリアの考え方は以下の通りとします。

ゾーン・エリア		利活用の考え方
城跡イメージゾーン	水辺の憩いエリア  <関連性が高いイメージモデル> ②休日を過ごしたくなる憩いの場 ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地	<p>大濠公園の水面とその周回園路を中心とした範囲を「水辺の憩いエリア」とします。</p> <p>通行レーンの明確化やマナーアップを図ることで、都心での貴重な水辺を感じながら歩行者やジョギング利用者、自転車利用者、ペットの散歩など、様々な利用者がより快適で安心して利用できるようにします。休憩施設や水辺に親しみやすい場所を設け、水景を眺めながら子ども達が安全に安心して遊び、また、水辺の野鳥など自然との触れ合いを通じて、来園者の交流を促進します。</p>
	芸術文化エリア  <関連性が高いイメージモデル> ⑤ジョギングの聖地 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地	<p>福岡市美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設、それらをつなぐ空間、周辺地域への広がりを含めて「芸術文化エリア」とします。</p> <p>福岡の芸術文化施設が連携し相乗効果を高めるための核となるエリアとして位置付けます。</p> <p>拠点となる施設へのアプローチの向上や施設間の回遊性の向上に加え、芸術文化の雰囲気が現在の施設内のみにとどまらず、パブリックアートやアートイベントなどを介して公園全体やNHK福岡放送局などの周辺施設をはじめ、都市全体への広がりへとつなげていきます。県民・市民の芸術文化への関心と活動を育み、芸術文化分野を中心とした観光の拠点化を図ります。</p>
	交流広場エリア  <関連性が高いイメージモデル> ②休日を過ごしたくなる憩いの場 ⑤ジョギングの聖地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク ⑩企業連携のステージ	<p>舞鶴中学校跡地や城内住宅などの非史跡施設の移転跡地と舞鶴公園三ノ丸広場を中心とした範囲を「交流広場エリア」とします。</p> <p>全てのエリアに接し、既存の広場に移転跡地を加えた都心部最大の広場となり、イベントや様々な利用プログラムなどの充実などにより閑散期を含めて通年来園者が憩い集う交流を育む場所とします。各エリアの接点にあたる場所は優先的に見通しをよくし、大濠公園と舞鶴公園の物理的・視覚的な連続性をもたせることで、一体的な賑わいを育みます。</p> <p>また、舞鶴公園のボタン・シャクヤク園やフジ棚、ショウブ園などの季節感を感じるみどりを積極的に活用します。</p>
鴻臚館エリア  <関連性が高いイメージモデル> ⑤ジョギングの聖地 ⑧アジアを代表する観光地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク	<p>鴻臚館跡の史跡指定範囲を「鴻臚館エリア」とします。</p> <p>国史跡鴻臚館跡整備基本計画（策定中）との整合を図り、発掘調査、資料の収集に努めるとともに、復元整備を行うことで、鴻臚館の時代に思いをはせることができる古代の歴史文化の学習の場、迎賓の場としての活用を図ります。</p> <p>施設の復元までの期間は芝生広場として利用し、段階的に明らかになっていく福岡の歴史の深さを、来園者と共有していきます。</p> <p>また、継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向け、財源確保の仕組みを構築し、来園者とともに将来にわたって保存を図ります。</p>	

城跡イメージゾーン	福岡城跡ゾーン	<p>福岡城本丸エリア</p>  <p>＜関連性が高いイメージモデル＞ ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑧アジアを代表する観光地</p>	<p>福岡城本丸の範囲を「福岡城本丸エリア」とします。</p> <p>国史跡福岡城跡整備基本計画と整合を図り、一義的に歴史的建造物などを保存するとともに、福岡城跡の最大の見所として、史跡を活用した利用メニューの充実を図ります。積極的な復元整備や既存建造物の配置の是正、石垣の保存・修景による城跡の雰囲気演出を図り、来園者が福岡城跡の歴史を感じ、学ぶことができる空間とします。</p> <p>また、継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向け、財源確保の仕組みを構築し、来園者とともに将来にわたって保存を図ります。</p> <p>将来的に本丸御殿が復元されるまでは、歴史的な雰囲気の中でサクラを楽しむことができる場としての活用を図ります。</p>
	<p>福岡城二ノ丸エリア</p>  <p>＜関連性が高いイメージモデル＞ ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑧アジアを代表する観光地</p>	<p>福岡城二ノ丸の範囲を「福岡城二ノ丸エリア」とします。</p> <p>国史跡福岡城跡整備基本計画との整合を図り、歴史的建造物や庭園などの復元整備や既存建造物の配置の是正、石垣の保存・修景に努め、来訪者が城らしさを感じられる城郭としての景観保全を重視します。</p> <p>また、二ノ丸への入口部は公園の園路と適切に連続させるとともに、二ノ丸のエントランスとしての魅力向上を図り、来園者をエリア内に誘導するような雰囲気づくりを行います。福岡城本丸エリアとあわせ、財源確保の仕組みを構築します。</p>	
	<p>エントランスエリア</p>  <p>＜関連性が高いイメージモデル＞ ②休日を通じた憩いの場 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地 ⑩企業連携のステージ</p>	<p>明治通りと国体道路からの主要な入口とその周辺に加え、天神側からの玄関口となる福岡高等裁判所周辺を「エントランスエリア」とします。</p> <p>外部からも公園の雰囲気が感じられ、公園の入り口として魅力的でわかりやすい空間を目指し、来園する観光客や県民・市民の期待感を向上させます。</p> <p>また、来園者への案内機能や公園と地域の魅力を伝えるガイダンス機能などを備えた施設の導入を図り、両公園一体となった情報提供を行うことで、外国人観光客も含めた多様な来園者が、安心してわかりやすく利用できるようにします。</p> <p>さらに、都心部に近い貴重なオープンスペースとして、災害時の避難場所や避難路などの防災機能の強化を図り、来園者や県民・市民に対する安心・安全を確保します。</p>	
	<p>城跡イメージゾーン</p> <p>＜関連性が高いイメージモデル＞ ①利用者に愛される公園 ②休日を通じた憩いの場 ③ボランティアの舞台 ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク ⑩企業連携のステージ ⑪魅力づくりに貢献したくなる公園</p>	<p>福岡城跡は堀の部分も含めると両公園を合わせた範囲以上に広がっていたことから、両公園全体及び周辺を「城跡イメージゾーン」とします。</p> <p>周辺からのアプローチやエントランスとしての機能を高めるとともに、都市景観上も重要である沿道や周辺から城跡のイメージを感じられる場所については、門や堀等の復元整備や土塁上の樹木の保全・密度管理など「お城」が感じられる空間づくりを行います。</p> <p>また、鴻臚館跡と重なる範囲においては、福岡の歴史の重層性が感じられる空間づくりを行い、ゾーンが一体となって来園者に福岡というまちが持つ深い歴史の魅力を伝えるものとします。</p>	

(3) 主要な施設

大濠公園・舞鶴公園における主要な施設の考え方は以下の通りとします。なお、各施設間での共通チケットの導入や共同イベントの開催など、連携の強化を図ります。



図：主要施設図

①総合案内施設

(仮称)セントラルパーク総合案内施設(新設)

天神側からの玄関口となる高等裁判所跡地には、今後の発掘調査の結果を踏まえて遺構に影響の無い場所に、両公園全体を総合的に案内する施設を新たに設置します。

②芸術文化施設

福岡市美術館

芸術文化施設間の連携を強化するとともに、美術館内での芸術文化の雰囲気や屋外の公園空間に広げ、公園の雰囲気と美術館の雰囲気を有機的につなげることで、多くの県民・市民が、気軽に芸術文化に親しみ、楽しめる施設とします。また、展示・収蔵機能の向上や、ユニバーサルへの対応、大濠公園側のアプローチや舞鶴公園線側からのアプローチ、カフェの新設などによるリニューアルを行います。

能楽堂

能楽堂で行われている能をはじめとする日本の伝統文化に関わる活動が、イベントなどを通じて公園空間に広がりを見せることで、来園者が気軽に日本の伝統文化の魅力を感じることができる、学びと交流が育まれる施設とします。

日本庭園

芸術文化施設間の連携を強化し、来園者にとって入りやすく、親しみやすい環境づくりを行います。また施設認知度の向上を図り、より多くの人々に日本庭園の芸術性や文化性、茶道の心得などを体感し学ぶことができる施設とします。

③文化財関連施設

鴻臚館跡遺構展示保存施設

既存の鴻臚館の原寸大模型や遺構の露出展示を活かしつつ、福岡の歴史の重層性を感じる施設として改築を検討します。ガイダンス機能に加えて便益機能を付加し、国内外からの来園者の様々なニーズへの対応を図り、誰もが親しめる学びの場となる施設とします。

多聞櫓

県民・市民や観光客の認知度を高めるため、積極的な活用を推進し、ガイダンス機能や便益機能の付加について検討します。

潮見櫓

学術的な検討を踏まえながら、潮見櫓の復元を行います。また、解説サインの設置や歴史的景観の復元に向けた植栽など、周辺でのお城の雰囲気を感じられる環境整備を行います。

祈念櫓

構造上の課題、部材の劣化状況、害虫の発生等の建造物の保存に影響を与える要因について必要に応じて調査を行い、学術的な検討を踏まえながら、本来の姿への復元を修復整備と併せて行います。

④広場

三ノ丸広場

県民・市民の日常的な散策や新たな大規模イベントや公園の特徴を活かした多様なイベントに対応することのできる広場とします。

鴻臚館広場

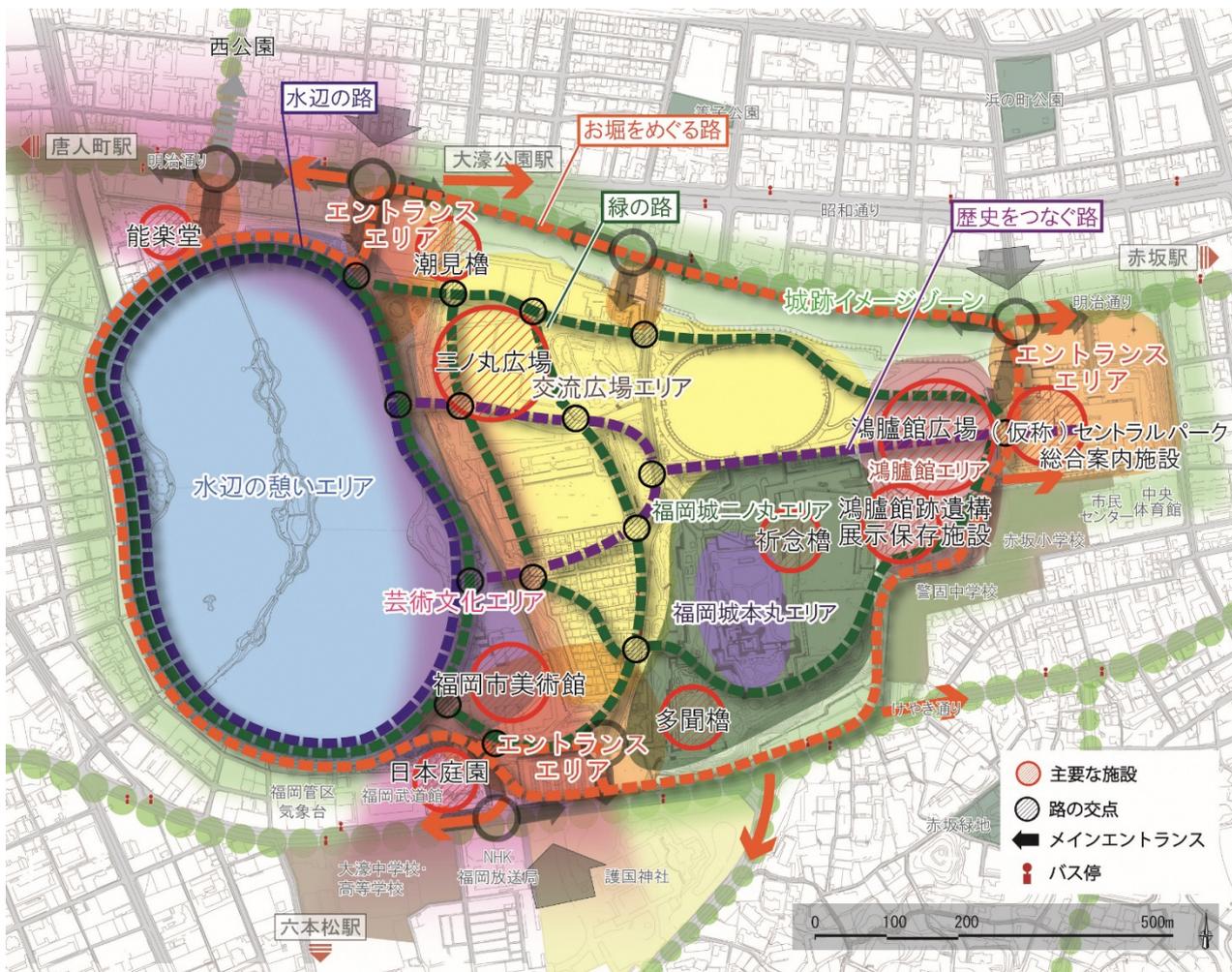
明治通りからの玄関口であり、多くの人々の往来があることを想定し、幅広い層の来訪者が気軽に立ち寄ることのできる集客・交流イベントの実施のほか、日常的な市民の憩いの場としての利用に適した広場とします。

また、鴻臚館という施設の有していた機能、そこで行われていたことを理解し実感できる空間とします。

(4) 利活用方針図

①利活用方針図

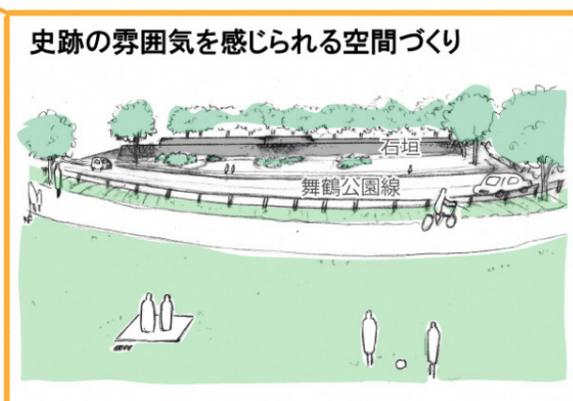
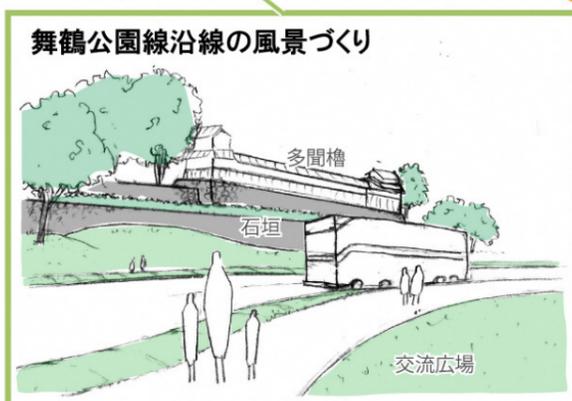
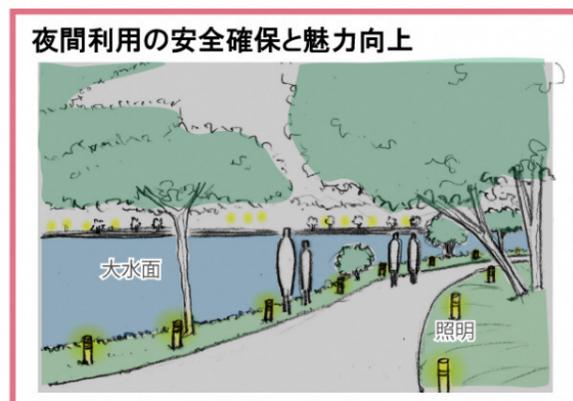
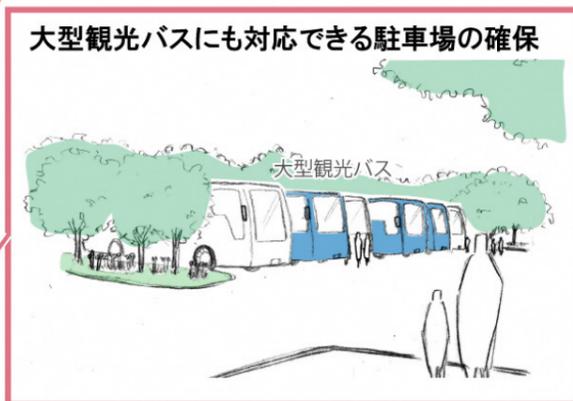
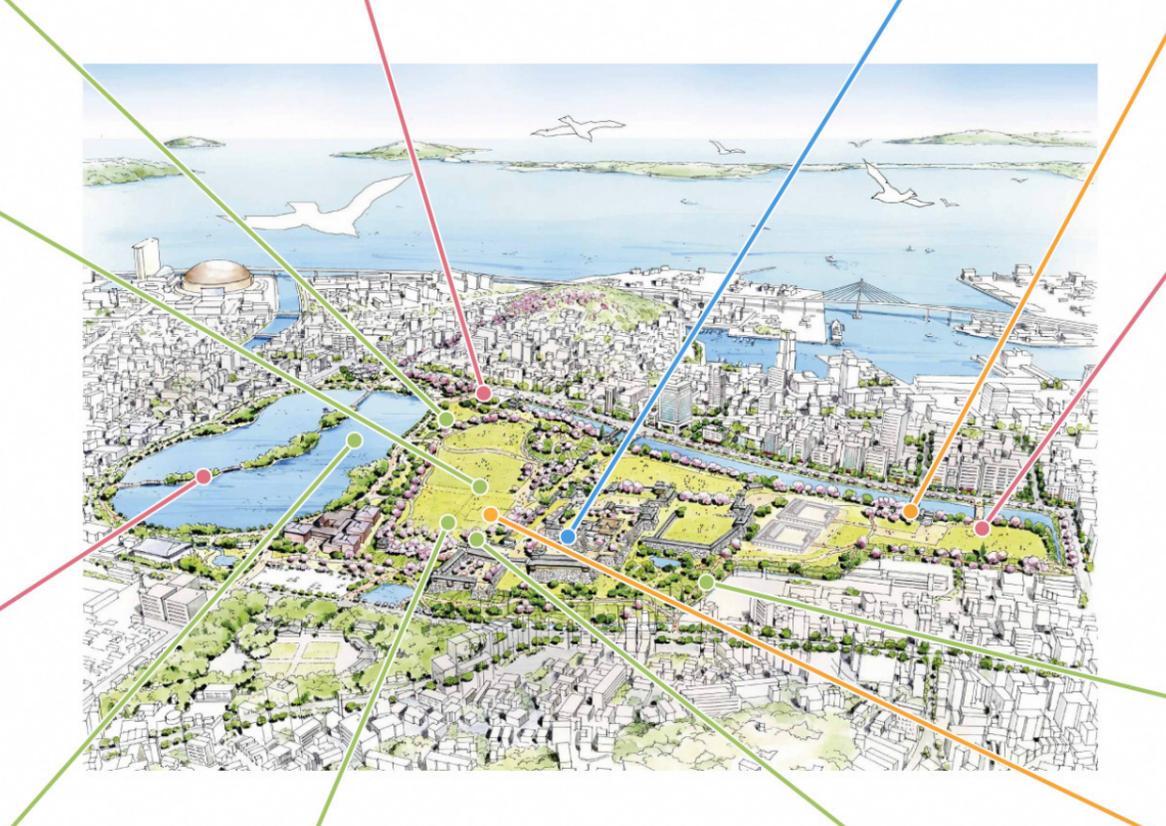
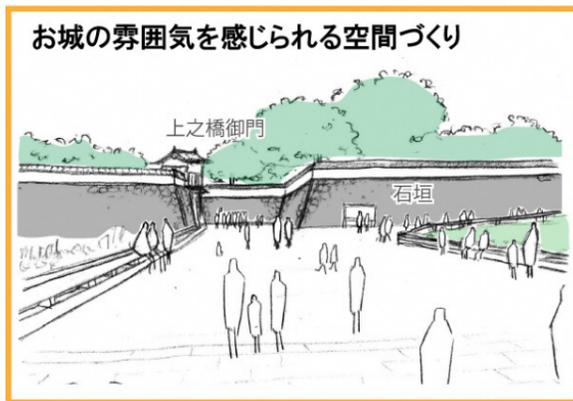
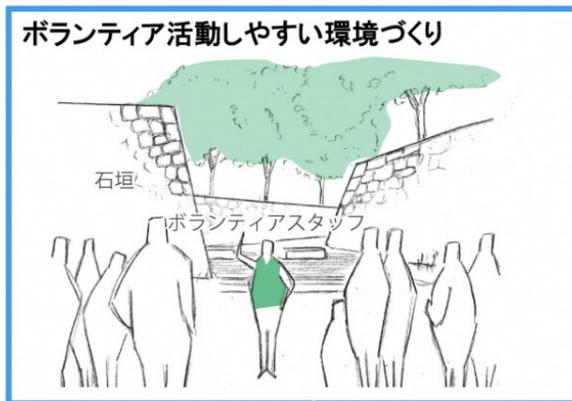
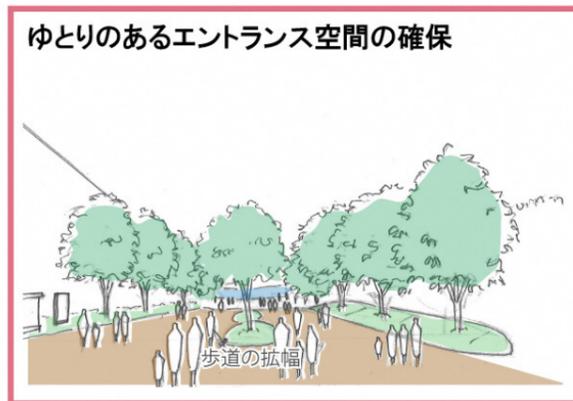
ゾーニング、主要な動線、主要な施設を重ね合わせたものを利活用方針図とし、大濠公園・舞鶴公園の一体的な今後の利活用の骨格として位置付けます。



図：利活用方針図

②利活用方針図の展開イメージ

公園内の様々な場所で、利活用イメージモデルで示した活用が展開されるよう、両公園の利活用の展開イメージを整理します。



3. 利活用推進計画

ここでは、利活用イメージで示された将来像を実現するため、参加したくなる活動や取組みについて、県民・市民や企業・関係者の声を取り入れながら、共働によるパークマネジメントの方向性を整理します。

(1) ソフト展開の方向性

大濠公園・舞鶴公園が持つそれぞれの個性を十分に発揮させるパークマネジメントを実践するため、管理運営方針を定め

- ①歴史性や場所性を活かしながら、利用者に喜ばれ、県民・市民活動を育てていく「企画運営」
- ②子どもからお年寄りまで幅広い世代からなる地域住民をはじめ、県民・市民、各種団体や企業等の様々な主体との共働を育む「地域連携・体制づくり」

の分野において、方針に沿った取組みを展開していくことが重要です。

ここでは、ゾーニングごとに利活用の考え方を整理した上で、これらの具体的な取組みの方向性について整理し、その実現に向けた地域連携や体制づくりの考え方を示します。

また、今後の県民・市民・観光客、企業の参加の中で、これらの管理運営の取組みは現在の行政主導の状況から、利用者の取組みが主体となった運営を目指し、連携体制の構築を行っていくものとします。



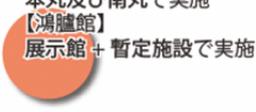
図：管理運営主体の概念図

(2) 企画運営の基本的事項

本計画では、イベント及び利用者プログラムのソフト展開を効果的に行っていくため、県民・市民と観光客という二つの利用者をターゲットに施策を実施していきます。

県民・市民に対しては、すでに評価の高い両公園の季節の花々・みどりを活かしたイベントの充実を図ります。第1段階（STEP1）では、さくらまつりを中心とした春のイベントのパッケージ化を図り、第2段階（STEP2）ではそのノウハウを活かし、四季を通じてパッケージ化されたイベントの実施を行います。

観光客に対しては、鴻臚館や福岡城の歴史資源を活かした利用プログラムの充実により、公園に訪れた特別感を演出します。第1段階（STEP1）では、福岡城の本丸及び三ノ丸広場と鴻臚館跡周辺で実施し、第2段階（STEP2）ではその範囲を福岡城跡全体と、鴻臚館跡に広げ、段階的なレベルアップを図ります。

ターゲット	展開イメージ		
	現在	STEP1	STEP2
 県民・市民	 さくらまつり	 春・秋のイベントをパッケージ化	 年間通じてパッケージ化されたイベントやプログラムを実施
 観光客	 未実施	 【福岡城】本丸及び南丸で実施 【鴻臚館】展示館+ 暫定施設で実施	 【福岡城】本丸・三ノ丸で実施 【鴻臚館】新展示館+ 復元施設で実施

図：ソフト展開のイメージ

① イベント・利用プログラム

大濠公園・舞鶴公園は、歴史施設や芸術文化施設、豊かな水辺や緑の自然環境を有しており、来園者の様々なアクティビティに対応し、また新しい利活用の可能性を秘めています。公園の企画運営としては、歴史探訪や自然観察、ジョギングなどの現在の利用促進を図りながら、更に公園が持つ場所の魅力や環境を活かし、ARやVRなどのデジタル技術の活用を視野に入れた新たなイベントやプログラムづくりを行うものとしします。また、ガイドボランティアによる公園内の案内や、海外からの来園者でも利用することができる通訳ガイド付きのプログラムなど、誰もが参加できるイベントやプログラムの充実を図ります。

- 大型集客イベント：食イベント、コンサート等
- スポーツイベント：ジョギング大会、スポーツ観戦等
- 歴史系イベント：歴史探訪等
- 地域イベント：地域のお祭り等
- その他のイベント：クリーンアップ活動等



図：両公園全域でのイベント・利用プログラム

■公園全域におけるイベント

区分	イベント例	連携可能性	内容
■大型集客イベント	四季のお祭り	さくらまつり実行委員会 おおほりまつり実行委員会 等	現在行われている大型集客イベントと連携・拡充する。 メイン会場を交流広場とした、公園全域を利用したイベントとする。
	音楽祭	県・市内のサークル団体 教育機関 等	メイン会場を交流広場、裁判所跡の芝生広場や陸上競技場をサブ会場とし、県・市で音楽活動を行っている団体のステージイベントを実施する。
	国際交流イベント	旅行会社 等	国際交流を育むイベントとして、グルメフェスティバル、ステージイベント等を公園全域を利用して実施する。
■スポーツイベント	マラソンフェスティバル	県・市内のサークル団体 教育機関	大濠周辺、陸上競技場を中心としたマラソン大会。園外をコースに含んだ実施を検討する。
■歴史系イベント	福岡の歴史まるごと体験	能楽堂 日本庭園 福岡市 美術館 鴻臚館 福岡城 むかし探訪館	園内の歴史資源に関わる各主体が一体となって企画・実施を行い、福岡県・市が有する歴史の重層性を体感することのできるイベント。園外の歴史的な資源とも連携して実施し、国内外へ福岡の魅力をPRする。
■地域イベント	県・市のイベントとの連携	県・市でイベントを主催・共催する各団体	園外で行われている全県・全市的なイベントにおいて、イベント会場のひとつとして連携実施を行う。
■その他のイベント	公園クリーンアップ活動	県・市民 公園周辺の民間企業 公園を定期的に利用している団体 教育機関	ゴミ拾いをはじめとする清掃活動を市民参加により実施する。民間企業のCSR活動と連携を図る。

②情報発信

公園の基本的な情報発信やイベント告知、安全管理だけにとどまらず、県民・市民の取り組みや県・市の観光情報を発信していくことで、福岡の情報発信の拠点となることを目指します。特に福岡市美術館においては、周辺の観光情報や歴史文化情報を発信する観光拠点としての整備を図ります。また、観光情報や公園の総合案内機能を持った（仮称）セントラルパーク総合案内施設を新たに設置します。

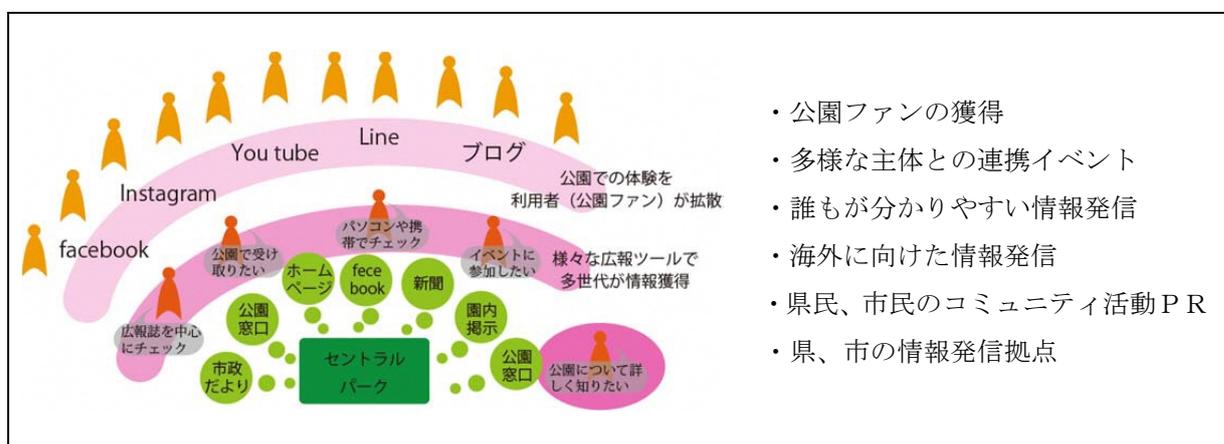
また、県民・市民と共働で、情報紙やインターネットを介した情報発信の仕組みづくりや旅行会社や出版社等の企業と連携した情報発信の仕組みづくりを検討します。さらに、来園者自身がSNS等を通じて情報発信ができるよう、福岡市の無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」の導入等を検討し、インターネット環境の向上を図ります。

(7) 案内情報

- ・ イベント案内：イベントの実施日時や内容、参加条件などを伝える
- ・ 見頃案内：桜の開花や紅葉の時期等を伝える
- ・ 利用受付案内：スポーツ施設などの利用受付方法や空き情報などを伝える

(1) 管理情報

- ・ 市民活動等の紹介：ボランティア・市民団体の活動や募集情報を伝える
- ・ 禁止事項等の伝達：公園の利用規則や禁止事項などを伝える
- ・ 緊急案内：休園や開園時間の変更、利用禁止区域などを伝える



図：県民・市民と一体となったPR活動イメージ

●公園全域における情報提供

提供場所	提供内容	媒体・利用方法
全域	・ 公園の各エリア、施設のガイド情報	貸出する携帯端末や携帯電話のソフトウェアを利用し、セルフガイドによる公園巡りを行う。通信ネットワークに関しては、公園全域をカバーするWi-Fi通信を用いる。
全域	・ イベントの実施情報（当日のイベント開始や変更に関する速報）	貸出する携帯端末や携帯電話のソフトウェアを利用し、当日のイベント開始や時間・場所の変更、また、安全管理に関わる情報を、速報で音声や文字情報で来園者に通知する。

(3) エリアごとの企画運営目標

①水辺の憩いエリア

<企画運営目標>

- ・ 開放的な水環境と触れ合い楽しむ場
- ・ 緑や生き物と触れ合い、学ぶ自然体験の場

<関連性が高いイメージモデル>

- ②休日を過ごしたくなる憩いの場
- ④都心部の生き物の大きな家
- ⑤ジョギングの聖地

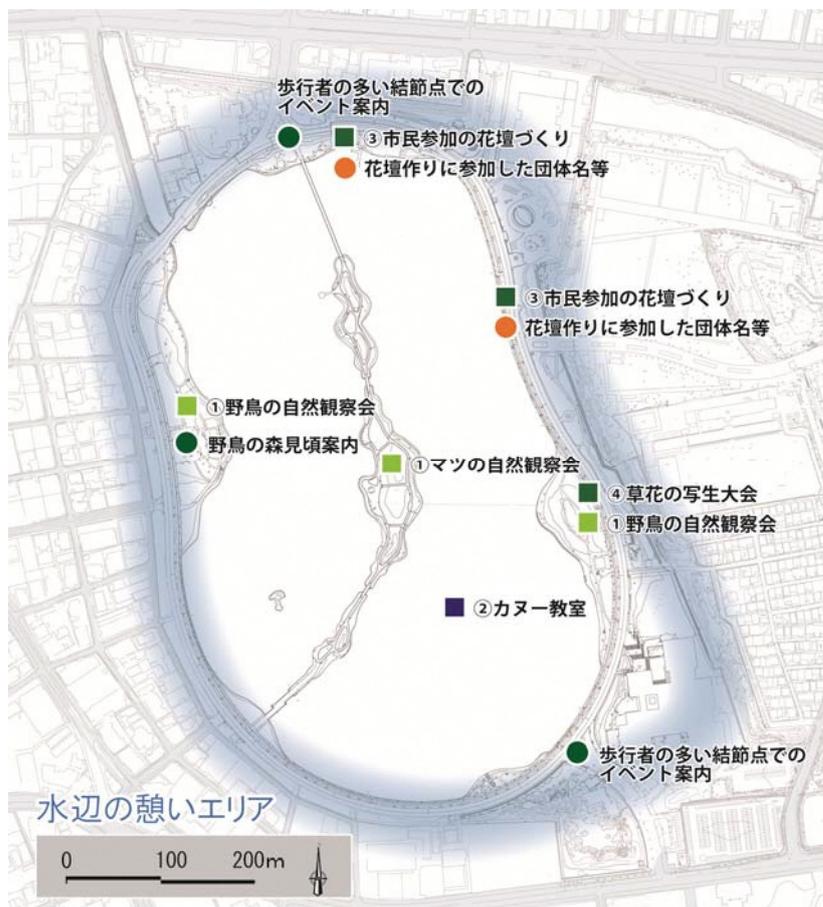
<凡例>

イベント

- 大型集客イベント
- 緑化啓発イベント
- スポーツイベント
- 自然観賞・体験イベント
- 文化系イベント

情報提供

- 案内情報
- 管理情報



■ イベント

区分	イベント例	連携可能性	内容
■ 自然観賞・体験イベント	①自然観察会	自然に関する専門性の高いNPO 等	テーマや季節毎に設定
■ スポーツイベント	②カヌー教室	福岡市カヌー協会、大濠公園ボートハウス 等	既存イベントの継続・拡充
■ 緑化啓発イベント	③市民参加の花壇づくり	教育機関、福祉施設、企業、公民館 等	既存イベントの継続・拡充
	④草花の写生大会	教育機関、福祉施設 等	既存イベントの継続・拡充

● 情報提供

提供場所	提供内容	媒体
市民参加で作った花壇	a. 参加した市民や団体の名称、草花の種類	仮設掲示板等
野鳥の森	b. 見頃案内（野鳥の飛来時期等）	仮設掲示板等
歩行者の多い結節点	c. イベント案内	仮設掲示板等

②芸術文化エリア

<企画運営目標>

- ・ 県・市の芸術文化に触れ合い、学ぶ場
- ・ 芸術文化を通じた、県民・市民の交流を育む場

<関連性が高いイメージモデル>

- ⑤ジョギングの聖地
- ⑦アート巡りの拠点
- ⑧アジアを代表する観光地

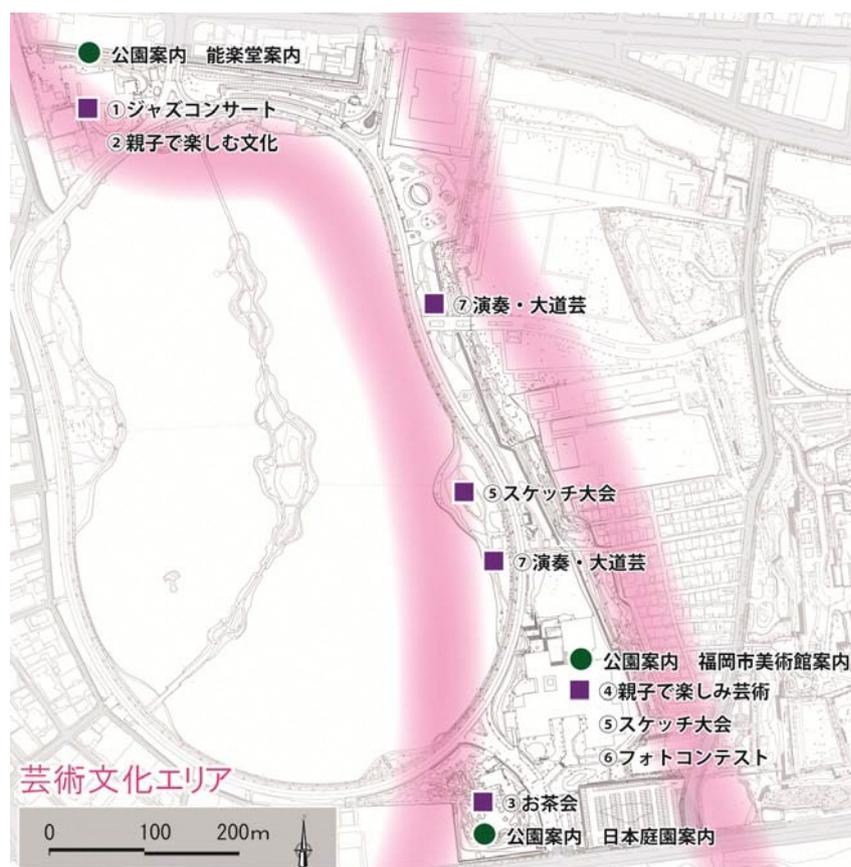
<凡例>

イベント

- 大型集客イベント
- 緑化啓発イベント
- スポーツイベント
- 自然観賞・体験イベント
- 文化系イベント

情報提供

- 案内情報
- 管理情報



■ イベント

区分	イベント例	連携可能性	内容
■ 文化系イベント	① ジャズコンサート (能楽堂)	大濠公園能楽堂 ジャズバンド	既存イベントの継続・拡充
	② 親子で楽しむ文化	大濠公園能楽堂 教育機関	既存イベントの継続・拡充 (子どもと楽しむ古典芸能、子ども能楽教室、草ヶ江子ども狂言会)
	③ お茶会	市民サークル 県内の技能者 大濠公園日本庭園	既存イベントの継続・拡充 (新緑の会、日本庭園茶会館抹茶優良サービス)
	④ 親子で楽しむ芸術	福岡市美術館 県内の芸術家 教育機関	既存イベントの継続・拡充 (夏休み子ども美術館、ファミリーDIY)
	⑤ スケッチ大会	福岡市美術館 県内の芸術家 教育機関	公園全体を対象としたスケッチ大会 (福岡市美術館をメイン会場として)
	⑥ フォトコンテスト	県内の写真家 県民・市民	県民・市民の取った県内の風景等の写真コンテスト
	⑦ 演奏・大道芸	県内の演奏家・芸術家	小規模な演奏、大道芸などの披露

● 情報提供

提供場所	提供内容	媒体
管理事務所	a. 公園全体の総合利用案内 (イベント案内、見頃案内、利用受付案内、市民活動等の紹介、禁止事項の伝達、緊急連絡、芸術文化・歴史施設の案内、県・市の観光案内 等)	印刷物、電子媒体 (電子掲示板・HP等)、スタッフ (窓口) による案内 等
能楽堂	b. 公園全体の総合利用案内 能楽堂の総合利用案内	印刷物、電子媒体、スタッフ (窓口) による案内 等
日本庭園	c. 公園全体の総合利用案内 日本庭園の総合利用案内	印刷物、スタッフ (窓口) による案内 等
福岡市美術館	d. 公園全体の総合利用案内 福岡市美術館の総合利用案内	印刷物、電子媒体、スタッフ (窓口) による案内 等

③交流広場エリア

<企画運営目標>

- ・公園中心に位置する、大規模な芝生広場を活用した、大規模なイベントを実施する場
- ・既存の季節ごとの大型集客イベントと連動した、メイン会場の場
- ・大型集客イベントを通じた国際交流を育む場

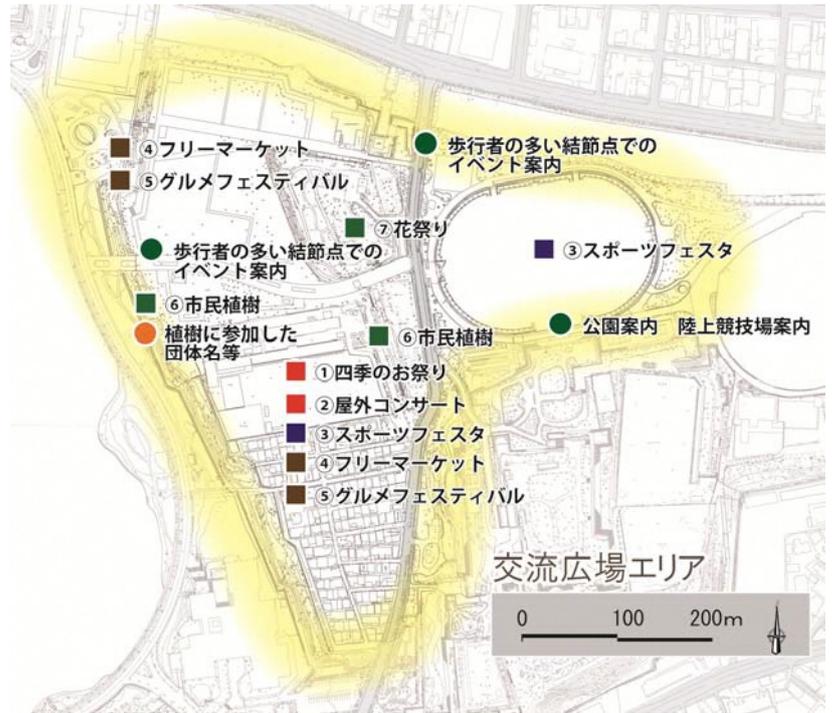
<凡例>

イベント

- 大型集客イベント
- 緑化啓発イベント
- スポーツイベント
- 自然観賞・体験イベント
- 文化系イベント

情報提供

- 案内情報
- 管理情報



<関連性が高いイメージモデル>

- ②休日を過ごしたくなる憩いの場
- ⑤ジョギングの聖地
- ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク
- ⑩企業連携のステージ

■イベント

区分	イベント例	連携可能性	内容
■大型集客イベント	①四季のお祭り	さくらまつり実行委員会 おおほりまつり実行委員会 等	現在行われている大型集客イベントと連携し、物販・飲食・ステージイベントなどを交流広場で行う
	②屋外コンサート	県民・市民サークル・団体 教育機関	交流広場にステージを設置し行うコンサート
■スポーツイベント	③スポーツフェスタ	県民・市民サークル・団体 教育機関 民間企業	交流広場、競技場を活用したスポーツ振興イベント 国際的な実施を目指す
■食・物販イベント	④フリーマーケット	県内の事業者 県民・市民	交流広場で行う
	⑤グルメフェスティバル	県内の事業者 県民・市民	交流広場を会場 県市や世界の名物グルメ飲食・販売イベント
■緑化啓発イベント	⑥市民参加の植樹体験	教育機関、福祉施設、企業、公民館 等	交流広場整備時に一部の場所で植樹体験を実施
	⑦花祭り	教育機関	ボタン・シャクヤク園を中心とした、公園全体の花木観察会

●情報提供

提供場所	提供内容	媒体
陸上競技場	a. 公園全体の総合利用案内 陸上競技場の総合利用案内	印刷物、電子媒体、スタッフ(窓口)による案内 等
歩行者の多い結節点	b. イベント案内	仮設掲示板等
市民植樹	c. 参加した市民や団体の名称、樹木の種類	仮設掲示板等

④鴻臚館エリア

<企画運営目標>

- ・福岡の歴史の重層性を体感する場

<関連性が高いイメージモデル>

- ⑤ジョギングの聖地
- ⑧アジアを代表する観光地
- ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク

<p><凡例></p> <p>イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大型集客イベント ■ 緑化啓発イベント ■ スポーツイベント ■ 自然観賞・体験イベント ■ 文化系イベント <p>情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 案内情報 ● 管理情報 	
---	--



■イベント

区分	イベント例	連携可能性	内容
■歴史系イベント	①バーチャルガイドツアー	福岡市観光案内ボランティア 教育機関	既存イベントの継続・拡充
	②歴史建造物ツアー	むかし探訪館 NPO 福岡城市民の会 福岡市観光案内ボランティア 教育機関	既存イベントの継続・拡充 (福岡城見学イベントとの連携)
	③生活体験・食体験	県内の事業者 県民・市民 教育機関	古代の生活や食文化を体験するイベント

●情報提供

提供場所	提供内容	媒体
鴻臚館展示館	a. 公園全体の総合利用案内 鴻臚館の案内	印刷物、電子媒体、スタッフ(窓口)による案内等
	b. ボランティアガイドによる公園案内	既存ガイドツアーとの連携

⑤福岡城本丸・二ノ丸エリア

<企画運営目標>

- ・福岡城の歴史と触れ合い、学ぶ場
- ・歴史的な風情の中で、様々なイベントを実施する場

<関連性が高いイメージモデル>

- ④都心部の生き物の大きな家
- ⑤ジョギングの聖地
- ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台
- ⑧アジアを代表する観光地

<凡例>

イベント

- 大型集客イベント
- 緑化啓発イベント
- スポーツイベント
- 自然観賞・体験イベント
- 文化系イベント

情報提供

- 案内情報
- 管理情報



■ イベント

区分	イベント例	連携可能性	内容
■ 大型集客イベント	①福岡城コンサート	むかし探訪館 県民・市民の団体	既存イベントの継続・拡充 屋外での実施を検討する
■ 歴史系イベント	②福岡城見学会	むかし探訪館 NPO 福岡城市民の会 福岡市観光案内ボランティア 教育機関	既存イベントの継続・拡充 (親子で学ぶ福岡城のひみつ、福岡城探検ゲーム、福岡城・鴻臚館お城めぐり、福岡城跡建造物見学ツアー、バーチャルガイドツアー)
	③福岡城フォトコンテスト	むかし探訪館	既存イベントの継続・拡充
	④生活体験・食体験	県内の事業者 県民・市民 教育機関	古代の生活や食文化を体験するイベント
■ スポーツイベント	⑤ノルディックウォーク	福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会 県民・市民サークル・団体	既存イベントの継続・拡充
■ 緑化啓発イベント	⑥さくらまつり	福岡城さくらまつり実行委員会	既存イベントの継続・拡充
	⑦紅葉めぐり		既存イベントの継続・拡充

● 情報提供

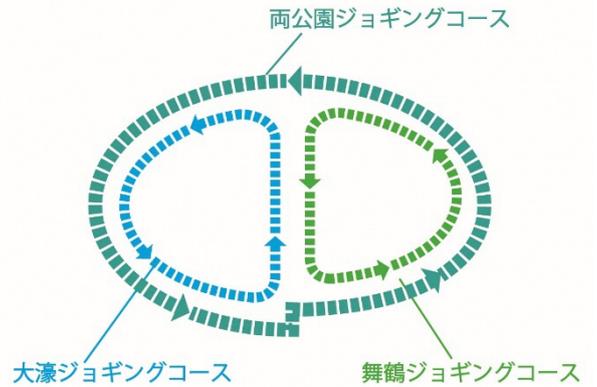
提供場所	提供内容	媒体
武具櫓	a. 公園全体の総合利用案内 福岡城案内	印刷物、電子媒体、スタッフ(窓口)による案内 等
	b. ボランティアガイドによる福岡城案内	既存ガイドツアーとの連携
多聞館等	c. 歴史的資源に関する情報揭示	仮設揭示板

(4) 両公園を巡る利用プログラム

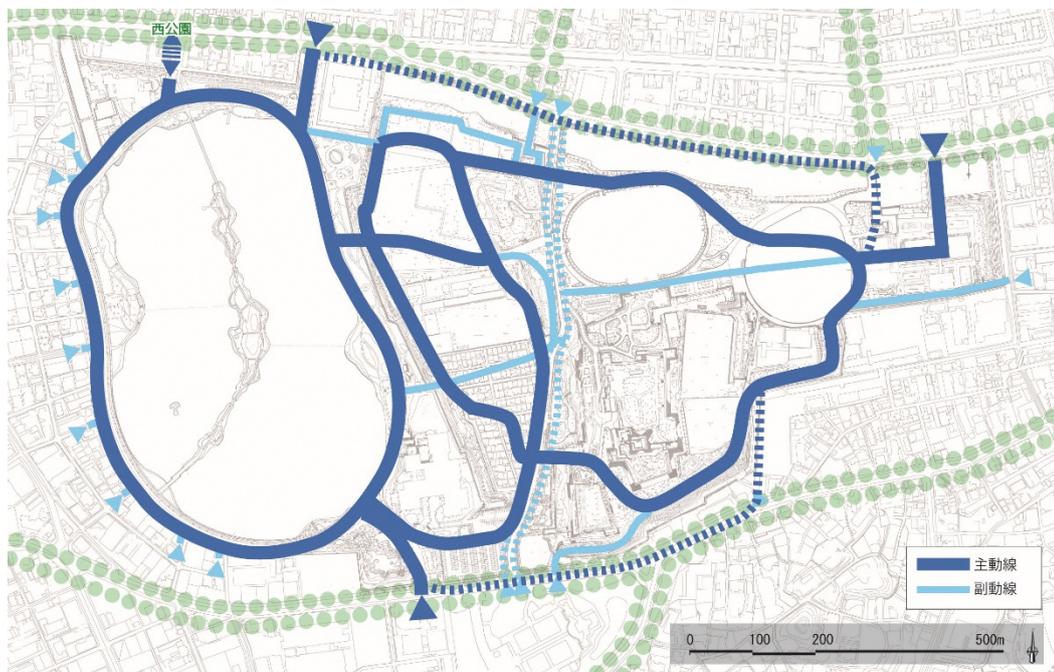
ここでは、利用者の目的に応じた回遊コースの設定を行い、両公園の「空間をつなぎ」、一体的に巡る利用プログラムの検討を行います。

① ジョギングコース

大濠公園の周回園路で行われているジョギングが、舞鶴公園でもできるようにすることで、大濠公園のジョギング利用者を舞鶴公園に引き込み、両公園の魅力を活用したコースを設定します。水辺の景色を楽しめる大濠ジョギングコース、歴史的な景色や緑の景色を楽しめる舞鶴ジョギングコース、その両方を楽しめる両公園ジョギングコースの実現を図ります。



図：コース設定概念図

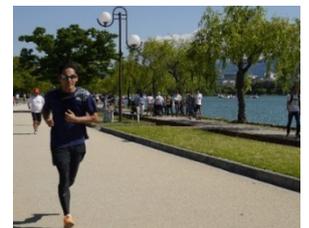


図：ジョギングコース

■ジョギングコース

テーマ	両公園内周回							
	大濠公園			舞鶴公園				
地点	ボートハウス	⇒ 能楽堂	⇒ 福岡市美術館	⇒ 多聞櫓前	⇒ 鴻臚館跡	⇒ 陸上競技場	⇒ 西側広場	⇒ ボートハウス
距離 (m)	240	1,200	420	570	480	400	200	3,510m
所要時間 (分)	ジョギング							26分
	ウォーキング							38分

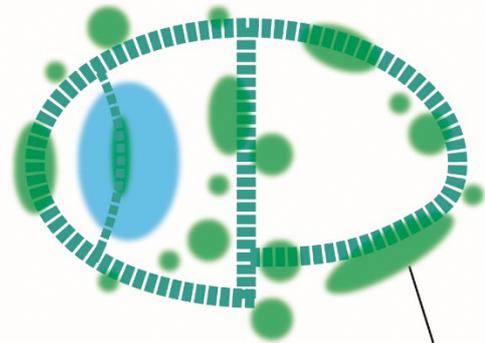
※設定速度は、(独)国立健康・栄養研究所作成の『改訂版 身体活動のメッツ(METS)表』による。
ジョギング(8.0km/時):134.1分, ウォーキング(運動目的で歩く):93.3m/分



図：モデルコースの所要時間

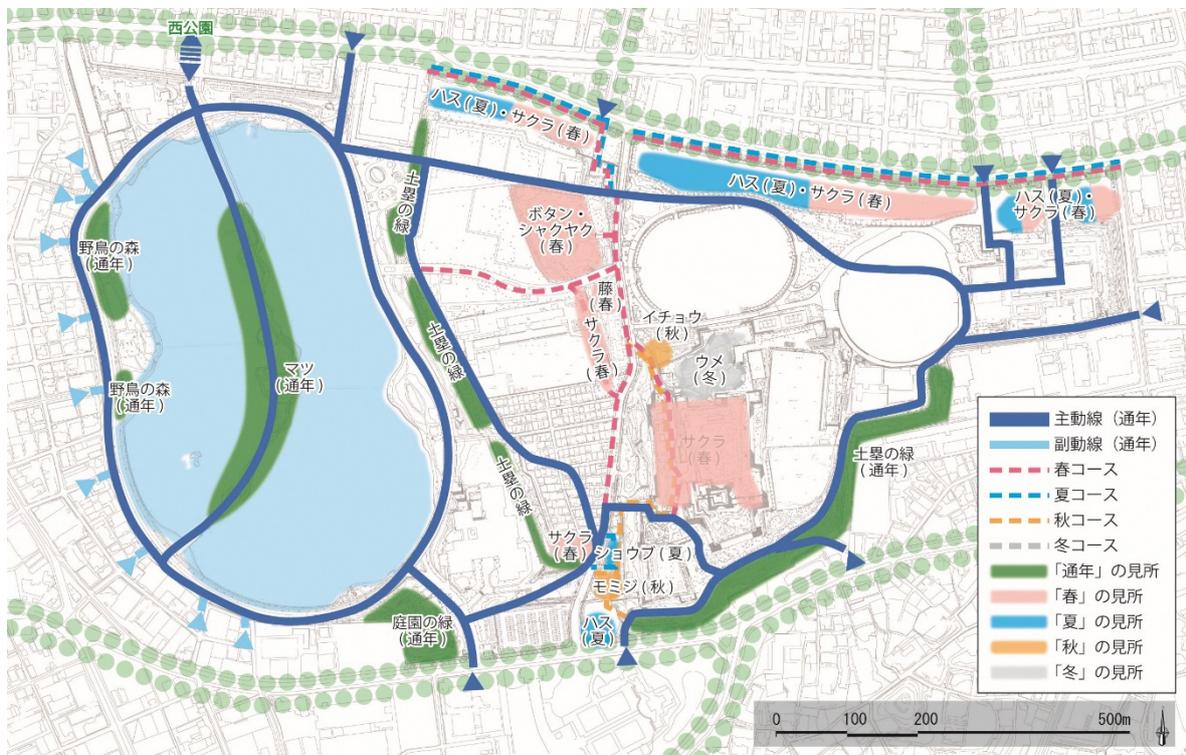
② 自然観察コース

土塁上の緑や、野鳥の森、大濠の水辺など通年自然観察を楽しむことができる場所をつなぐコースを設定します。また、花々や紅葉などの季節ごとに楽しむことができる場所について、季節ごとのコースを設定します。



両公園内の自然の観察スポット

図：コース設定概念図



図：自然観察コース

■自然観察コース(5月のコース)

テーマ	エントランス	水辺と緑を楽しむ		花と史跡を楽しむ			緑と史跡を楽しむ		水辺を楽しむ	エントランス
		水辺	水辺	ポタン・シャクヤク	フジ	ショウブ	巨木	水辺		
地点	大濠公園駅	⇒ 西側広場	⇒ 御高屋敷	⇒ フジ棚	⇒ ショウブ園	⇒ 南側土塁	⇒ 上之橋	⇒ お堀端	⇒ 赤坂駅	
距離(m)		120	480	160	340	340	800	200	120	
		2,560m								
所要時間(分)	移動時間(分)	2.3	9.0	3.0	6.4	6.4	15.0	3.8	2.3	
	滞在時間(分)	-	15.0	-	30.0	-	10.0	-	10.0	-
計		26分		66分			44分		7分	
		143分								

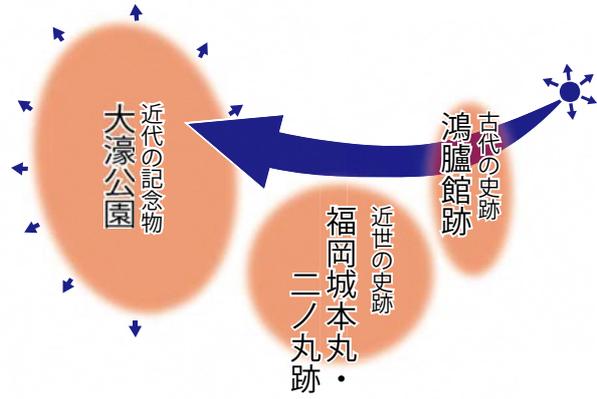
※設定速度は、(独)国立健康・栄養研究所作成の『改訂版 身体活動のメッツ(METs)表』による。
歩行(とてもゆっくり歩く):53.3m/分

図：モデルコースの所要時間

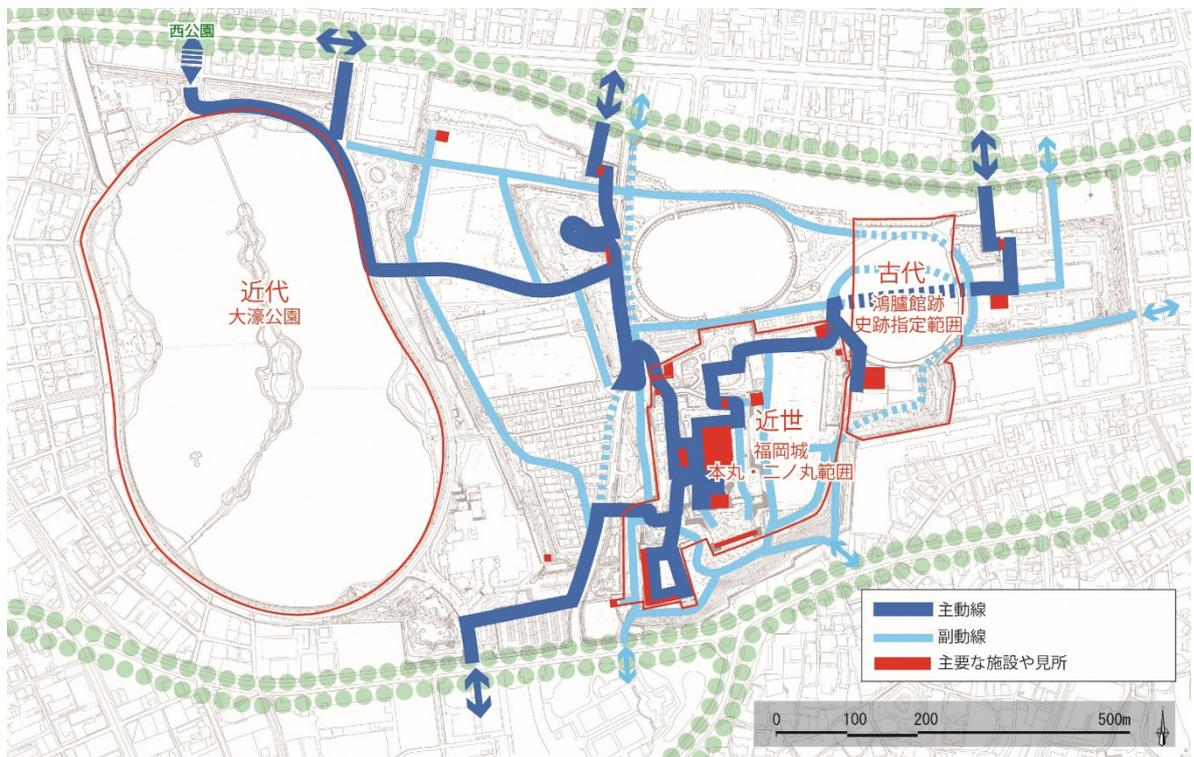
③ 歴史探訪コース

上之橋御門から鴻臚館跡、福岡城跡、大濠公園へとつながる「時をたどる」動線を設定します。

まずはガイダンス施設で福岡の歴史を学び、そこから実際に鴻臚館跡や福岡城本丸・二ノ丸を歩くことで、古代から現代につながる福岡の歴史を体感できるコースとします。



図：コース設定概念図



図：歴史探訪コース

■歴史探訪コース

テーマ	エントランス			古代		近代			近世	エントランス					
	総合案内	鴻臚館跡	二ノ丸	本丸	二ノ丸	三ノ丸	名勝								
地点	赤坂駅 ⇒ 上之橋 ⇒ 総合案内施設 ⇒ 鴻臚館跡 ⇒ 展示施設跡 ⇒ 扇坂 ⇒ 武器櫓・天守台 ⇒ 多聞櫓 ⇒ 松木坂 ⇒ 御高屋敷 ⇒ 下之橋 ⇒ 大濠公園 ⇒ 大濠公園駅														
距離(m)	220	180	240	180	240	2,860m		240	200	200	360	240			
所要時間(分)	移動時間(分)	4.1	3.4	4.5	3.4	4.5	5.3	5.3	4.5	3.8	3.8	6.8	4.5		
	滞在時間(分)	-	5.0	-	30.0	-	20.0	-	60.0	-	5.0	-	40.0	-	30.0
計	47分			88分			125分			35分			294分		

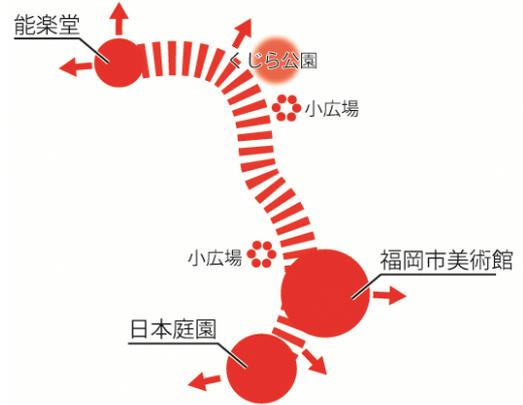
※設定速度は、(独)国立健康・栄養研究所作成の『改訂版 身体活動のメツ(METS)表』による。
歩行(とてもゆっくり歩く):53.3m/分

図：モデルコースの所要時間

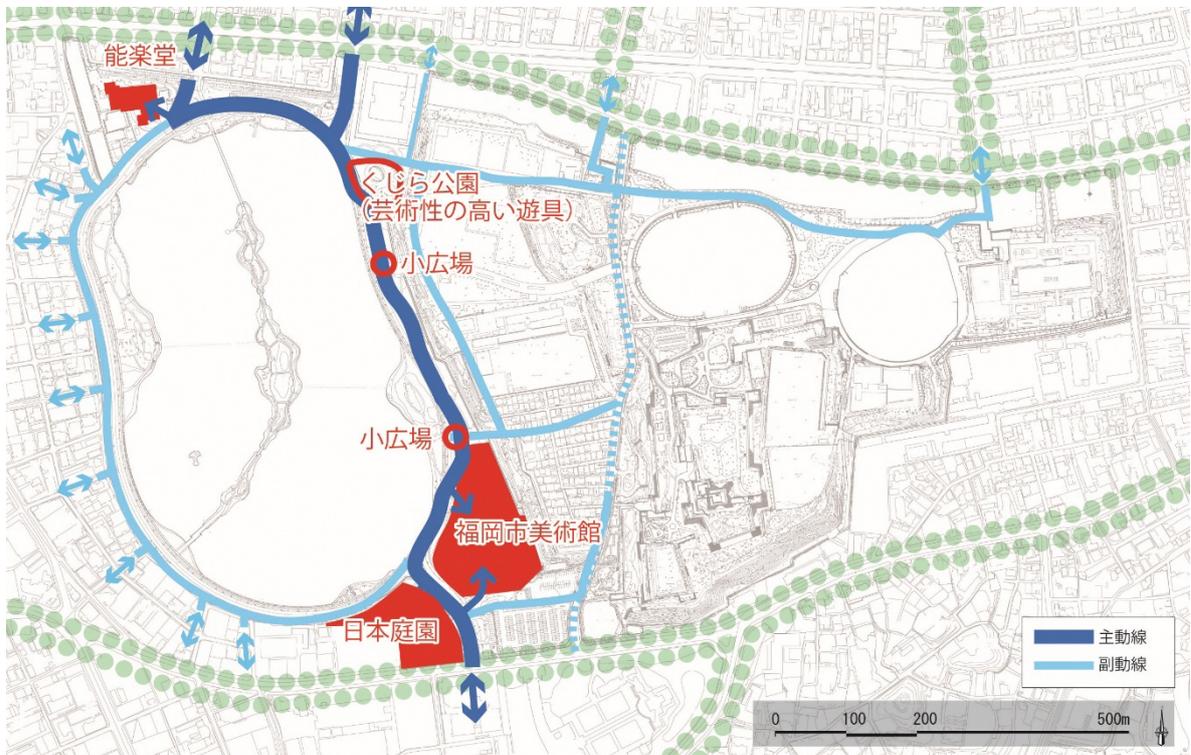
④ 芸術文化コース

能楽堂、福岡市美術館、日本庭園をつなぐ動線を芸術文化コースとして設定します。

芸術文化施設の間には、**パブリックアート**や**芸術性の高い遊具等**の設置を検討するとともに、小規模な演奏や大道芸などのイベントを開催することができる小広場を設け、屋外で行われる芸術文化活動を楽しむことができます。また、地下鉄大濠公園駅から美術館に訪れた人への案内・誘導サインの充実や、舞鶴公園内からの誘導動線の設置を検討します。周辺の駅やバス停を利用して訪れる人々がアクセスしやすいコースとします。



図：コース設定概念図



図：芸術文化コース

■芸術文化観賞コース

テーマ	エントランス	芸術文化観賞			エントランス	周辺エリア	
		ハイカルチャー	市民パフォーマンス	ハイカルチャー			
地点	六本松駅 ⇒	日本庭園 ⇒	福岡市美術館 ⇒	小広場 ⇒	能楽堂 ⇒	大濠公園駅 ⇒	
所要時間	移動時間(分)	12.0	2.7	6.9	6.4	5.9	40.0
	滞在時間(分)	-	60.0	-	90.0	-	30.0
	計	12分		322分			40分

※設定速度は、(独)国立健康・栄養研究所作成の『改訂版 身体活動のメッツ(METs)表』による。
歩行(ほとほとの速さ):75.0m/分



図：モデルコースの所要時間

4. 官民共働の公園づくり

ここでは、周辺地域との連携によるまちづくりとの一体化や、民間活力による魅力づくり、県民・市民共働の体制づくり、一体的な整備と運営を支援・継続するための仕組みづくりについて、取組みの方向性を示します。

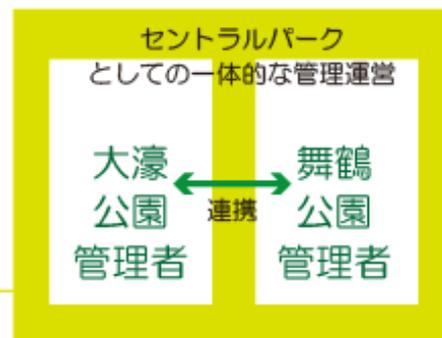
(1) 市民共働の運営体制づくり

様々な世代の県民・市民の参画により公園を様々な連携体制の中で「みんなで育てる」ための体制・仕組みづくりを示します。

① 両公園の一体的な運営体制づくり

大濠公園・舞鶴公園の管理者連携による一体的な管理運営体制の構築を図ります。

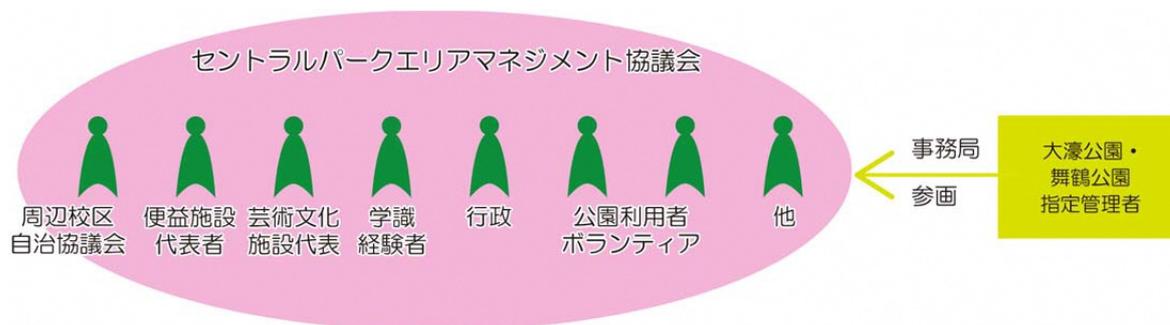
また、平成27年度に設置した「大濠・舞鶴公園連絡会議」をはじめとした、両公園の管理者と指定管理者の連携により、まずは公園の統一的な運用や総合的な企画推進などを進めていきます。



図：一体的な管理運営

② 公園内外の関係者が連携する体制づくり

両公園の管理運営に関する協議や意思決定を行う組織として、「(仮称) セントラルパークエリアマネジメント協議会」を設立するなど、関係団体と一体となった協議の場の仕組みづくりを検討していきます。体制のイメージとしては、両公園の指定管理者が事務局となって会議を運営し、行政や学識経験者、園内の施設代表者、公民館や校区の自治協議会などの地元代表、ボランティアなどの園内活動団体代表が加わり、公園に係る様々な取組みの連携に向けた協議・検討や情報共有を行います。セントラルパークエリアマネジメント協議会を通して行政、専門家、民間、地元、公園利用者が一堂に会し、情報共有や協議を行いながら、周辺地域でのイベントとの連動や、周辺地域と一体となった体制づくり、県民・市民の意見を反映できる体制づくりを含めて検討していきます。



図：セントラルパークエリアマネジメント協議会の体制

③専門的見地を取り入れる体制づくり

施設を整備する場合の統一的なデザインの保持や、樹木など動植物の適切な管理、史跡との整合などの課題について専門的な見地からアドバイスを受けるため、必要に応じて、分野ごとに、学識経験者らで構成する「専門アドバイザー部会」を設け、意見を取り入れる体制を構築します。



図：専門アドバイザー部会のイメージ

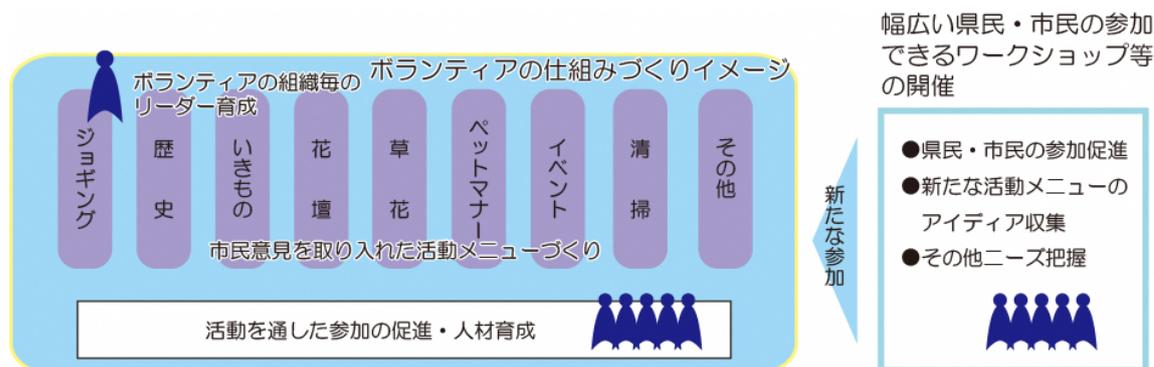
④県民・市民共働を育むボランティアの仕組みづくり

両公園が県民・市民に愛され、より地域に根付く公園としていくため、ガイドボランティアや清掃活動など、管理運営への県民・市民の参加の仕組みづくりを検討していきます。

活動メニューは、公園利用者からの意見を取り入れたものとし、観光客などに向けて文化財の価値を伝えるためのものや、芸術文化の魅力を伝えるためのもの、日常的な公園利用者のためのものなど、グループや対象者毎にバランスを取りながらプログラムの企画・実施を行っていきます。また、歴史や自然等の分野ごとのガイド育成に向けて、必要な講習会の開催や、ボランティアグループの交流会の実施など、技術の習得や管理運営に関わることへの意欲を促す取組みを行い、さらなる参加の促進やボランティアをはじめとした利用者の育成支援へとつなげていきます。

また、定期的にワークショップ等を開催し、新たなボランティアへの参加のきっかけづくりとするとともに、県民・市民のニーズ把握やアイデア収集の場として活用していきます。

また、子どもたちが公園の管理運営を実践する体験プログラム等を実施するなど、周辺の小中学校とも連携し、子どもたちが楽しみながら公園の管理運営に参加できる仕組みづくりを行います。

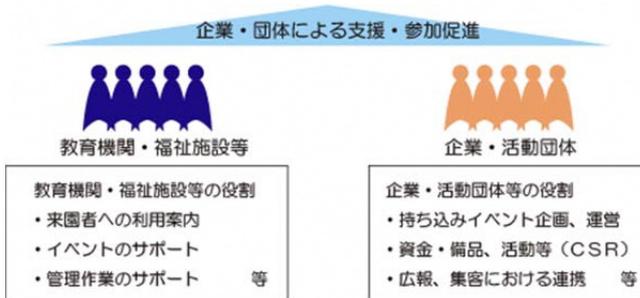


図：県民・市民参加の仕組みづくり

⑤企業や団体との連携

セントラルパークとしての魅力を一層高め、福岡の地域・経済の活性化に役立てるため、企業や各種団体の知恵、労力、資金などを受入れ、効果的に活用していくシステムやプロジェクトなどを検討します。具体的には、企業CSR、NPOとの連携によるイベントの企画・運営や、資金や活動面での支援、教育、福祉施設との連携による日々の管理作業やイベントのサポート等が考えられ、互いにメリットのある連携・活用の方策等を検討していきます。

公園のボランティア活動等

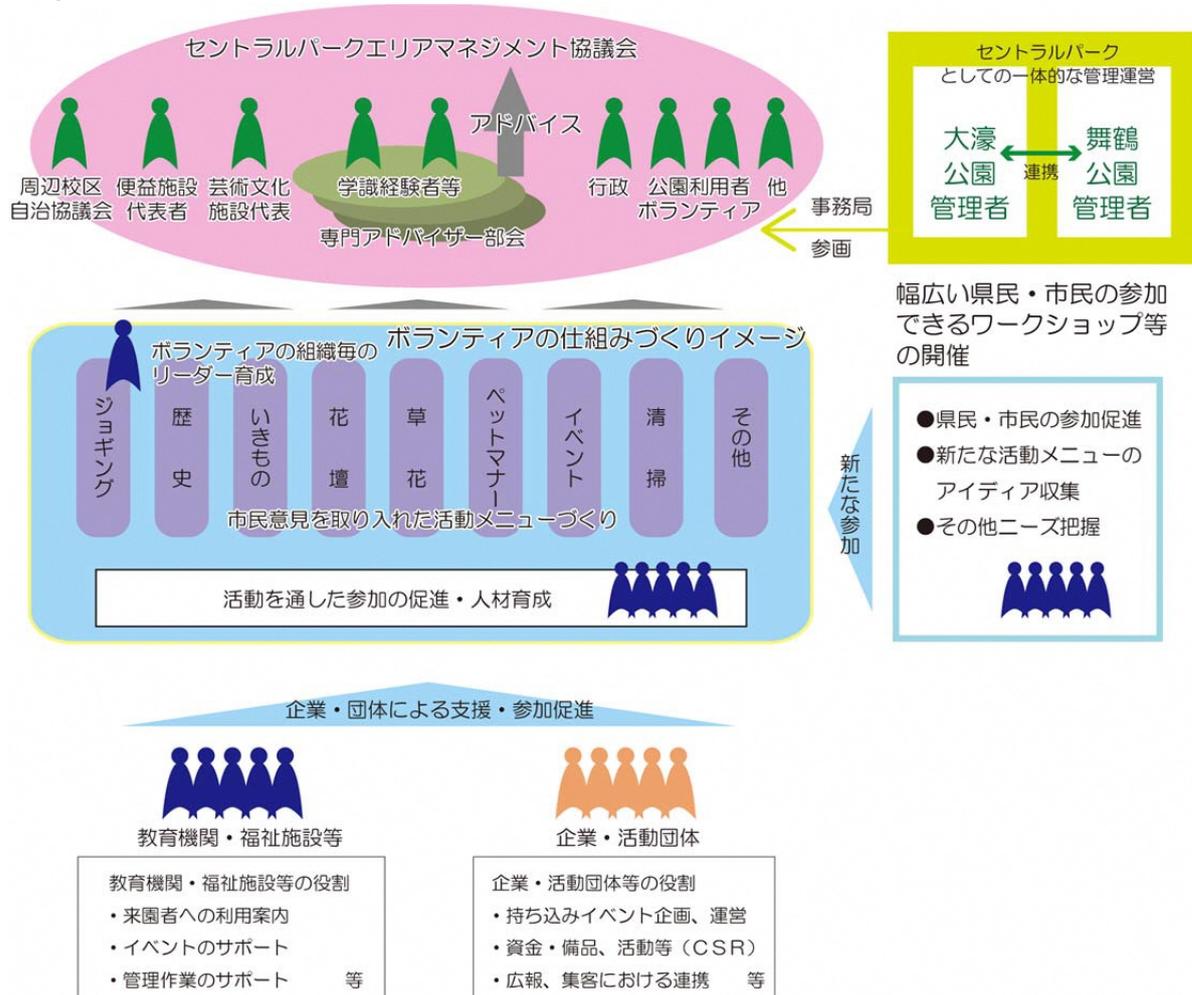


写真：造園団体によるボランティア活動（石垣除草）

図：企業や団体との連携イメージ

⑥共働によるパークマネジメントの全体像

多くの県民・市民の共働によるパークマネジメントの全体像として、①～⑤の考え方を体系的に整理します。様々な連携が関係し合いながら、公園の管理運営の発展へと展開していきます。



図：パークマネジメントの全体像

(2) 民間活力による財源確保と魅力づくり

県内・市内の企業や各種団体、県民市民等の意欲、ノウハウや資金など、民間活力の導入による魅力づくりの考え方を示します。

①整備・運営に関わる民間資産・ノウハウの活用

公園の利便性や快適性の向上につなげるため、平成29年の都市公園法改正により設けられたPark-PFI制度の活用などにより、民間のノウハウを活用した便益施設の整備・運営に取り組むとともに、民間企業の営業・広報活動を通じたイベントやコミュニティ活動への支援や、メディアとの連携によるPRにより、利用者のニーズに応じたサービス提供に取り組みます。

上記にあたっては、必要な人材確保や育成を行いながら、公園と企業の双方にとって、効率的かつ効果的な戦略を立てながら取り組みます。

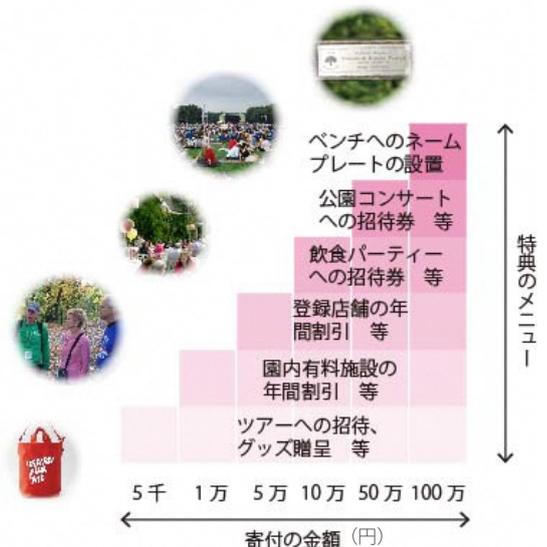


写真：西南の杜湖畔公園レストラン

②公園財源確保に向けた制度づくり

公園の財源確保の窓口を広げるために、公園基金の設置や拡充を行うとともに、管理運営費を支援する公園サポーター制度の導入により、寄付の金額によって様々な特典メニューを設け、継続的な寄付と公園利用につなげます。

また、ネーミングライツによる広告収入などを実現するための広告物等のルールづくりを検討していきます。



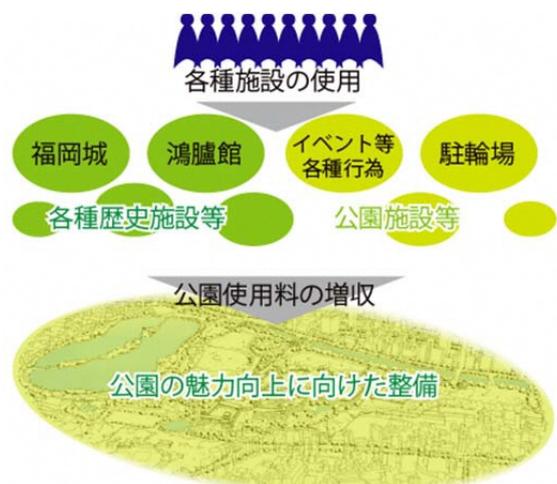
図：ニューヨークセントラルパークの仕組みを参考とした寄付と特典のメニューイメージ

③料金徴収制度の導入

両公園において質の高い維持管理など、充実した管理運営を行うため、各種施設の利用料金制度の導入を検討します。

また、新たな集客イベントの受入れを促進することにより、占用料や使用料の収入増加に取り組めます。

なお、駐輪場の利用料金制度の導入にあたっては、公園利用者以外の駐輪が目立つ現状の改善につなげます。



図：料金徴収促進による魅力向上

(3) まちづくりとの連携

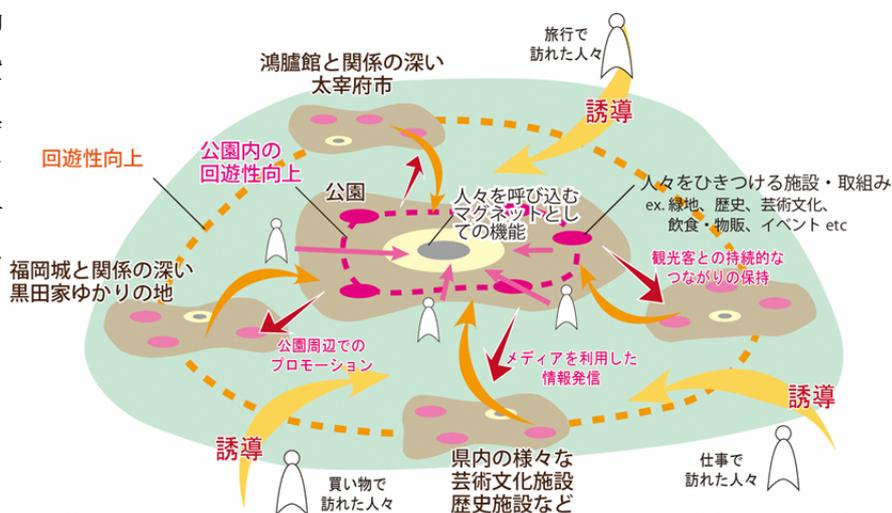
大濠公園・舞鶴公園の運営は、近隣住民や教育機関等の利活用への展開はもとより、県・市の観光や経済、教育など各分野のまちづくりの拠点となるよう結びつけていく必要があります。ここでは、「公園の中のまち」を目指し、両公園を中心とした一体的なまちづくりの考え方を示します。

① 広域連携

海外を含め広域から両公園への来訪者を誘導するため、国内外の歴史・芸術文化・観光などの分野の拠点と連携し、拠点間で情報発信を行います。

また、様々な目的で福岡を訪れた人々を両公園に誘導するため、県内の様々な地域における多様な場所や活動と公園利用との連動を図ります。

具体的には、イベントや活動の一体化や魅力的な施設の設置により、公園に人々を呼び込むマグネットとしての機能をもたせ、外への情報発信と併せて、広域での回遊性向上につなげます。



図：広域連携の概念図

② 公園と一体的な街並みづくり

公園と一体となった緑化推進のため、街路樹の落葉清掃や剪定など、公共空間におけるみどりの管理運営をはじめとして、民間施設の壁面や店先の緑化や花々の植栽などを促します。公園や史跡の景観等に配慮した街並みのルールづくりに取り組みます。また、公園内の芸術文化の雰囲気が周辺へと広がりを見せるよう、パブリックアート等の設置を検討し、周辺の芸術文化施設への回遊へとつなげます。



図：街並みづくりイメージ

③ 民有地の活用

近隣の民有地の公園への近接性というメリットを活かし、駐車場や店舗、ロッカー・シャワールームなどの機能の充実を図ります。

5. 災害時における公園の役割

公園は、地震火災時等には避難地・避難路となるほか、火災の延焼防止や救援活動の拠点として機能するなど、重要な役割を果たします。

大濠公園・舞鶴公園は、都心部に近い貴重な緑地空間における、安全・安心に利用できる空間として、防災機能の強化が公園づくりとあわせて必要とされています。

(1) 基本的な考え方

「福岡市地域防災計画（震災対策編）」（平成30年6月）によると、大濠公園・舞鶴公園は、広域避難場所※¹に指定されており、避難有効面積は舞鶴公園が15.4ha、大濠公園が10.5haとなっています。また、舞鶴公園内の平和台陸上競技場及び広場は災害時のヘリコプター離着陸場に指定されています。

周辺では、地区避難所※²として赤坂小学校、警固中学校のグラウンド等が指定されており、有効避難面積は赤坂小学校が4,200m²、警固中学校が7,200m²となっているほか、一時避難所※³には中央市民センター、中央体育館、赤坂公民館が指定されています。

※1…「広域避難場所」とは、大規模な災害発生時、大火災の発生、危険物の爆発等のおそれがある場合に、最終的な避難場所となり、地区避難場所よりさらに安全性が高い場所とされています。

※2…「地区避難所」とは、災害発生時に、家屋の倒壊、地盤の崩壊、火災の発生等の危険を避けるため、住民が一時的に避難する場所とされています。

※3…「一時避難所」とは、災害により自宅で生活できなくなった被災者を収容し、一時的に生活する場を提供する施設で、比較的軽微の災害時に優先して開設を予定されています。



図 大濠公園・舞鶴公園周辺の避難場所等(福岡市防災マップ中央区版)

「防災公園の計画・設計・管理運営ガイドライン（改訂版）」（平成29年9月）によると、防災公園の役割や機能の検討において、次の3点が基本（原則）とされています。

1. 都市防災全体の中での役割分担と連携（ハードとソフトの両面）を前提とする。
2. 公園の特質である“オープンスペース”と“緑”を生かしたものとする。
3. 公園の日常性（利用、土地利用、施設整備、景観、運営管理等）と整合を図る。

また、導入すべき機能の検討においては以下の事項に留意することとされています。

1. 都市全体の救援体制、システムとの整合
2. 他の防災関連施設等との機能分担と連携
3. 自立的な対応、防災機能を発揮すべき期間
4. 一体的な整備と相互利用
5. 災害時における公園の運営体制
6. 平常時の公園機能との整合と公園の立地・敷地条件
7. 公園空間を有効に活用した多様な防災機能の導入（備蓄施設やトイレなど）

以上の考え方を踏まえながら、大濠公園・舞鶴公園の災害時における利用について、基本的な考え方を以下のとおり設定します。

- 地域防災計画において広域避難場所に指定されている公園として、大濠公園と舞鶴公園で連携した防災拠点づくりを推進します。
- 平常時の公園・史跡として担う役割と、災害時に担う避難場所としての役割の両立を図ります。
- 災害時に救援活動の拠点となる中央体育館や赤坂小学校、警固中学校等の周辺施設の連携の強化を図ります。

(2) 避難スペースの確保と安全性の向上

都市公園の持つ大きな特質であるオープンスペースと緑は、他の都市施設の特徴にはあまり見られないものであるため、それらを生かし、防災機能を発揮することが求められます。公園が存在することによる市街地火災等の遅延・延焼防止機能、及び避難地としての機能、救助・救援、復旧やそのほか様々な支援活動の場としての機能など、重要で多様な機能があげられます。

大濠公園と舞鶴公園は、避難圏域人口 164,863 人に対して有効避難面積が現在 1.81 m²/人となっているため、目標値 2 m²/人を確保できるよう、非史跡施設の移転跡地を中心に避難スペースとして利用できる広場の拡充を図ります。

また、平成 17 年に発生した福岡県西方沖地震では、福岡城跡の石垣等が影響を受け、平成 28 年に発生した熊本地震では熊本城の石垣や櫓が崩壊しました。

避難スペースは避難場所としての安全性が確保できるよう、福岡城本丸・二ノ丸をはじめとする石垣や歴史的建造物が集中している箇所は、石垣等が崩壊するおそれがあることから、大規模な地震が発生した際には立ち入りを制限することとします。



図：熊本地震による熊本城の石垣の崩壊状況

また、熊本地震では、オープンスペースなどでの「車中泊」が多かったことが特徴の一つとされています。そのため、公園内のオープンスペースについては、理由あって避難所に行けない人が車中泊できるような避難スペースや、がれき置場といった、状況に応じた使い方ができるよう、公園を開放します。



図：公園での車中泊の様子

(出典：「防災公園の計画・設計・管理運営ガイドライン」)

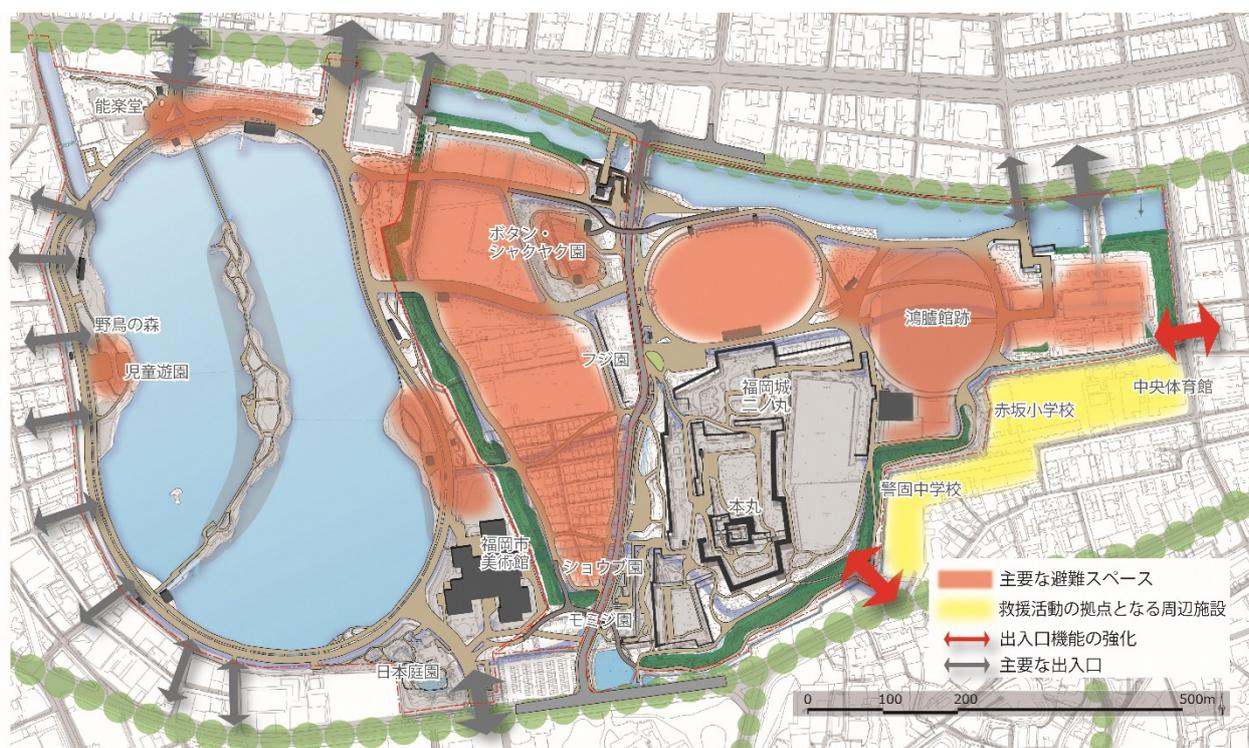
(3) 出入口及び園路の安全性の向上

災害時の出入口及び園路の利用については、避難者の動線や公園入口の位置、公園内の避難者の動線、また応急対応や復旧等の救援のための諸活動における緊急車両等の動線との整合性がとれているかが重要です。

大濠公園・舞鶴公園については、災害時には天神地区のある東側からの避難者が集中することが考えられる一方で、東側から舞鶴公園に入ることができる出入口は1箇所しかなく幅員も狭い状況です。土塁の保護の観点から短期的に幅員を拡幅することが難しいことから、出入りのしやすさや、歩きやすさの向上を図るとともに、長期的な視点で周辺の公有地を活用した出入口部の拡幅を図ります。

また、公園内の主要な動線は災害時の大型車両の通行を考慮した幅員・構造とし、副動線については出来る限り緊急車両の通行を考慮した幅員・構造とします。

園路の配置については、石垣や歴史的建造物の崩壊等に配慮し、適切な離隔を確保して配置することとします。



図：公園内の主要な避難スペースと出入口

(4) 施設

広域避難地の機能を有する都市公園では、広域避難や一時的避難生活などの避難者への対応が強く求められるため、安全な避難スペースの他、避難や一時的避難生活をバックアップする施設が重要となります。

避難や一時的避難生活を支援する観点からは、特に生活用水やトイレに係わる施設が重要であり、救護スペースや拠点、炊事等の生活に係わる施設として、あずまや等の建築物やパーゴラ、ベンチ等も有効に活用することも検討します。

大濠公園・舞鶴公園における避難者の一時避難生活の環境向上を図る為、飲料水や生活用水、エネルギーなどの確保にあたって以下の設備等の導入を検討します。

導入を検討する施設		
・耐震性貯水槽	・非常用井戸	・水施設（池・水流等）
・非常用便所	・非常用放送設備	・非常用通信設備
・非常用電源設備	・非常用照明設備	・備蓄倉庫

(5) 周辺施設との連携

公園内の検討のみではなく、想定する災害の種類や規模に応じて、あらかじめ他の都市施設や防災関連施設との間で、防災上の機能や導入する施設（貯水槽や備蓄倉庫等）における役割分担を図り、運用や管理等においても相互に連携を図ることが重要です。

災害時の地域拠点としては中央体育館や赤坂小学校、警固中学校等が機能することから、公物資や人材、情報伝達などの連携を育む仕組みづくりを行います。

(6) 平常時における施設の積極的な活用や普及啓発

被災直後については、行政側の支援体制が整っていない中で、公園の避難利用や一時的な避難生活利用等を地域住民が主体となっていくことが想定されます。また、災害時における「地域の防災力」を高めるために、地域住民一人ひとりの自助・共助に対する意識を高めることや、日頃から地域住民や住民組織等が協働する機会を創出し、協力体制を築いていくことも重要です。

そのため、平常時から公園に整備されている施設の活用体験や炊き出し訓練、ホームページ等を用いた積極的な周知を行うなど、災害時における施設の役割の周知・普及を推進します。



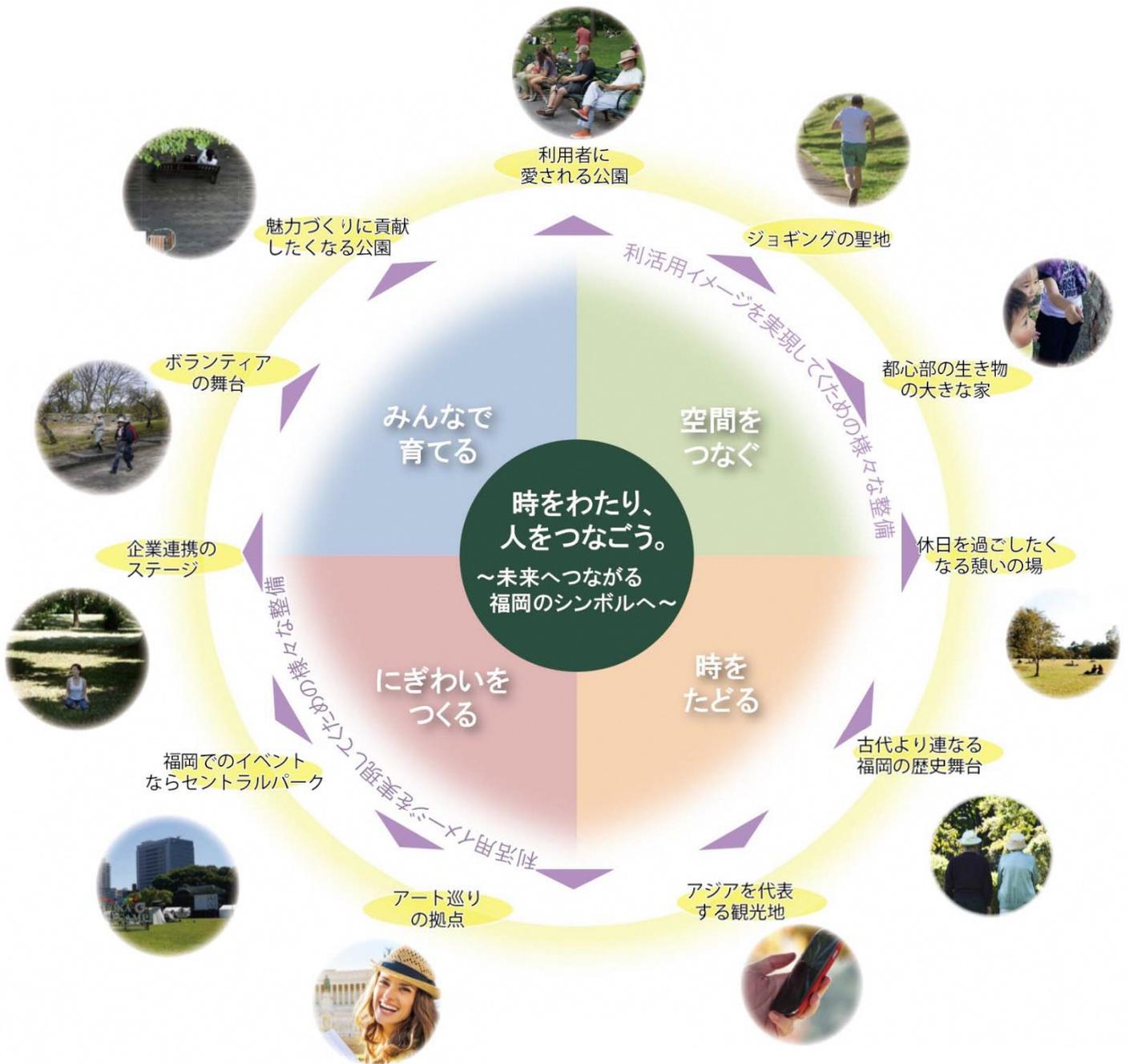
図 舞鶴公園での防災を学ぶイベントの開催

第IV章 再整備計画

1. 基本的な考え方

利活用の将来イメージの実現にあたっては、第III章で述べた様々なソフト施策に加えて、施策の展開を支えるハード面での空間づくりが必要となります。

ここでは、利活用の将来イメージを実現していくために必要な様々な整備や周辺のまちづくりについて内容の整理を行います。



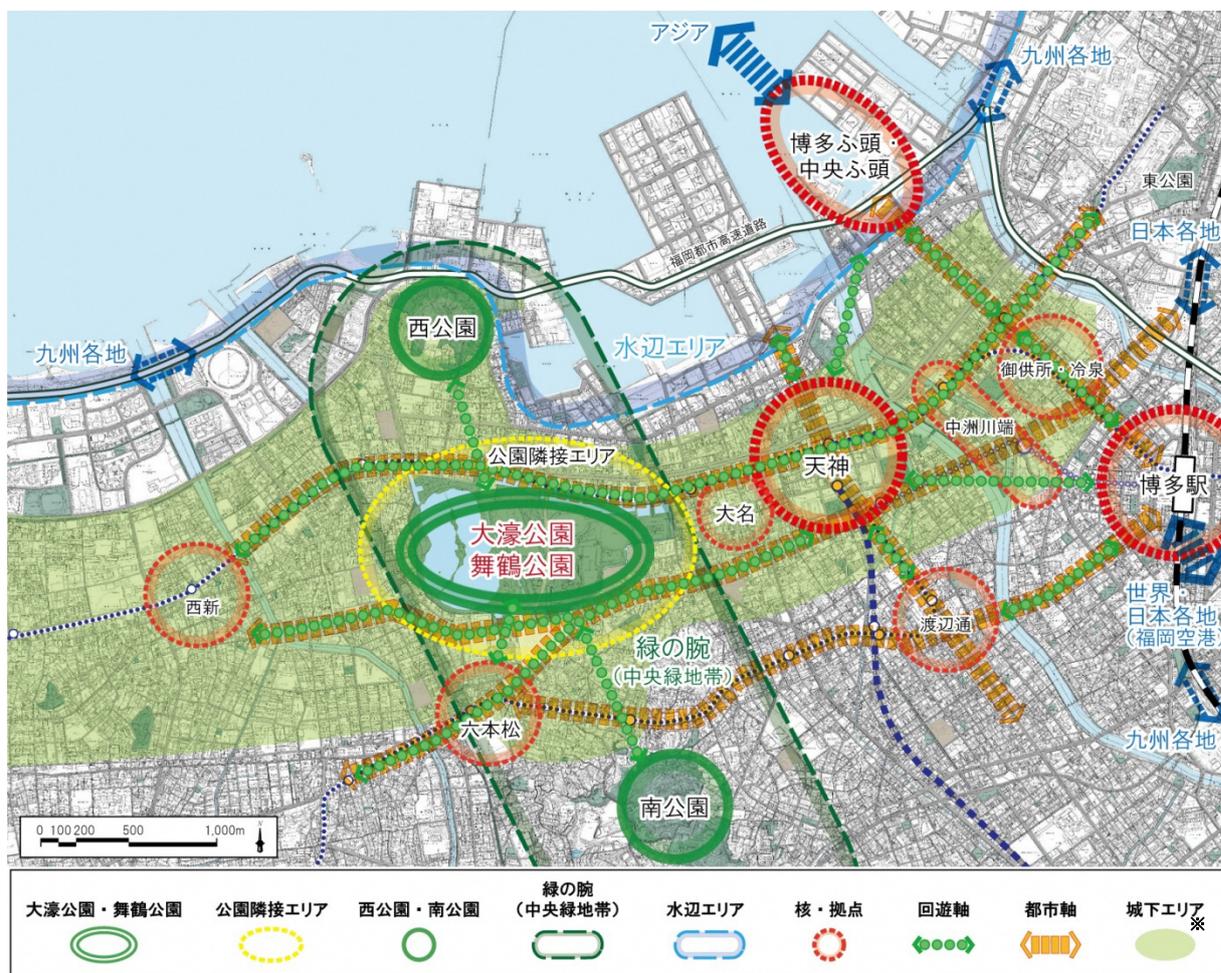
図：再整備の概念図

2. 周辺地域の整備の方向性

(1) 整備の考え方

「福岡市都市計画マスタープラン」(平成26年5月改定)と「福岡市 新・緑の基本計画」をベースに、大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用によりその効果が波及し、「まちの公園」から「公園のまち」へと展開していくための考え方を示します。なお、この方向性に基づく大濠公園・舞鶴公園の範囲外の事業については、内容ごとに所管部署との連携を図りながら推進していきます。

また、両公園の周辺では、旧大名小学校跡地活用事業や福岡市動植物園再生事業、九州大学六本松跡地におけるまちづくり、天神中央公園西中洲エリア再整備事業、西公園のサクラの魅力向上等、都心部の公園やオープンスペースの整備が進められています。それらと連携して都心の回遊性を一層高めていくこととします。そのためには、ユニバーサルデザインに配慮した周遊網の整備が必要です。



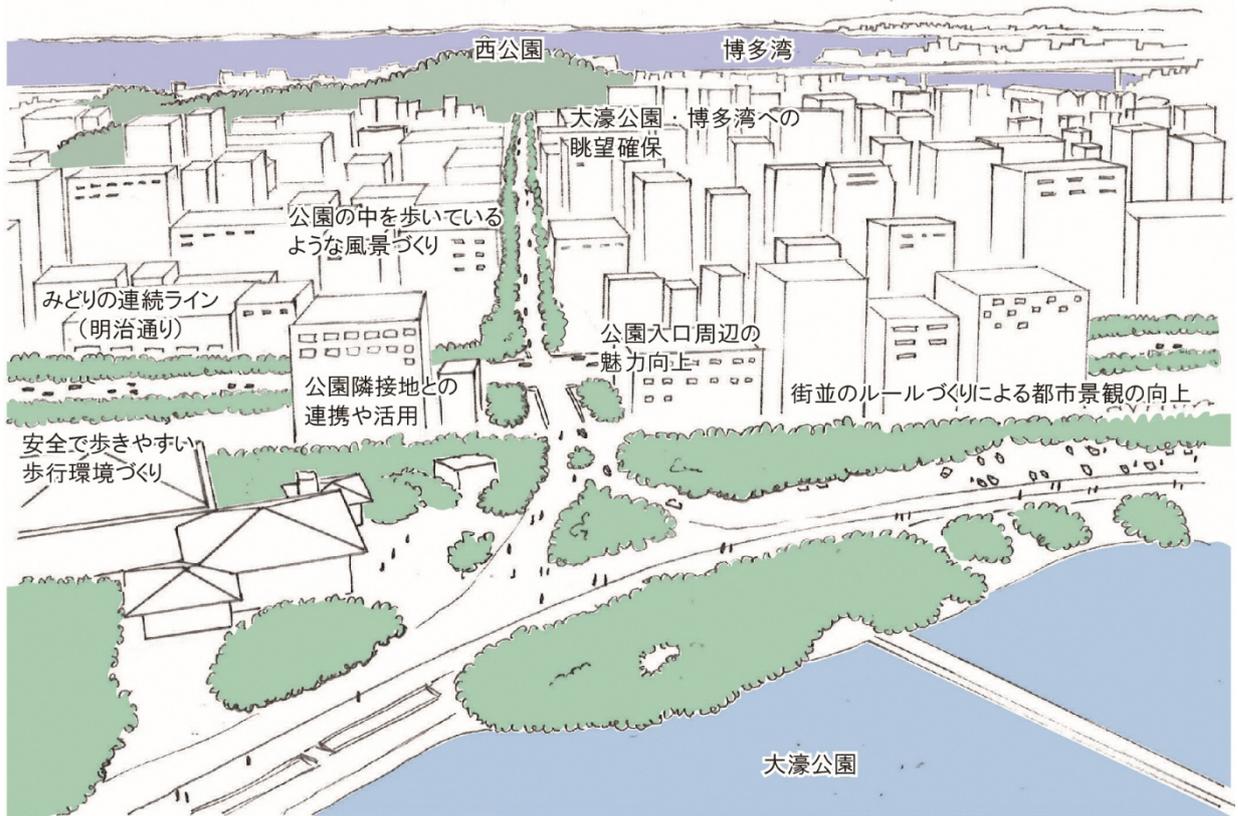
※福岡市都市計画マスタープランをもとに編集

図：周辺地域の整備方針図

エリア	整備の考え方
大濠公園・舞鶴公園 	<p>大濠公園・舞鶴公園エリアを核として、「まちの公園」から「公園のまち」の雰囲気へと福岡のまちを導くことができるよう、公園隣接エリアなどの見本となる、歴史や芸術が感じられ水と緑が豊かで高質な空間づくりを推進していきます。</p>
公園隣接エリア 	<p>エリア内の公有地を活用し、公園の雰囲気や史跡の歴史的な雰囲気が公園外にまでにじみ出していくよう公園への見通しの確保や緑化等を推進するとともに、民有地と連携した公園入口部周辺の魅力向上を図ります。</p> <p>また、大濠公園・舞鶴公園と一体となった緑化や、まちなみのルールづくりを推進するとともに、駐車場やアートギャラリー、スポーツ用品店、ロッカー・シャワーなど、民間施設との連携強化による魅力の向上を図ります。</p>
西公園・南公園 	<p>西公園・南公園は、大濠公園・舞鶴公園などと合わせて緑の腕（中央緑地帯）を形成する緑の拠点となっています。これらの緑の拠点の魅力向上を図るとともに、公園間を緑でつなぎ、公園の中を移動しているような景観づくりを推進します。</p> <p>西公園では桜の再生など魅力的な緑地としての存在感を高めるとともに、博多湾沿いの貴重な視点場として、生物多様性にも配慮しながら、樹木の適切な密度管理により視界の確保を図ります。</p> <p>南公園では老朽化が目立つ動物園を中心に平成18年度から20年計画でリニューアルを進めています。今後も動物や人にやさしい動植物園へのリニューアルを推進します。</p>
緑の腕 (中央緑地帯) 	<p>市街地の生活環境や生物の生息・生育環境の軸となる緑を引き続き保全しながら市民との共働により新たな緑地などを創造し、緑の豊かさが感じられる美しい都市の景観形成を図ります。</p>
水辺エリア 	<p>自然に恵まれた都市・福岡の大きな特徴である水辺エリアは、福岡らしい良好な水と緑の風景として、市民の休息・レクリエーション空間の創出を図ります。</p> <p>また、海からの眺望を大切にするとともに、背後に広がる市街地や博多湾の自然環境と調和した港の景観形成を図ります。</p>
核・拠点 	<p>都心部の魅力に更なる磨きをかける核・拠点づくりを目指すとともに、核・拠点の機能を補完する周辺地区と連携することにより相乗効果を高めます。また、幹線道路沿いの立地を生かして、沿道建物の高度利用を誘導し「九州・アジア」「環境」「魅力」「安全安心」「共働」の視点から都心部の機能強化と魅力づくりを進めます。</p>
回遊軸 	<p>公共交通や自転車を快適に利用でき、歩行者が楽しく回遊できる、質の高い都心部の回遊ネットワークを創出し、美しい街並みや緑、歴史資源などを楽しみながら誰にでも安心でわかりやすい回遊空間の創出を図ります。</p>
都市軸 	<p>福岡の骨格となる交通ネットワークを受け持つ都市軸として、都市計画道路などの整備状況に応じた土地利用の誘導や、沿道の有効利用、連続性のある良好な街並みの形成等を推進します。</p>

(2) 展開イメージ

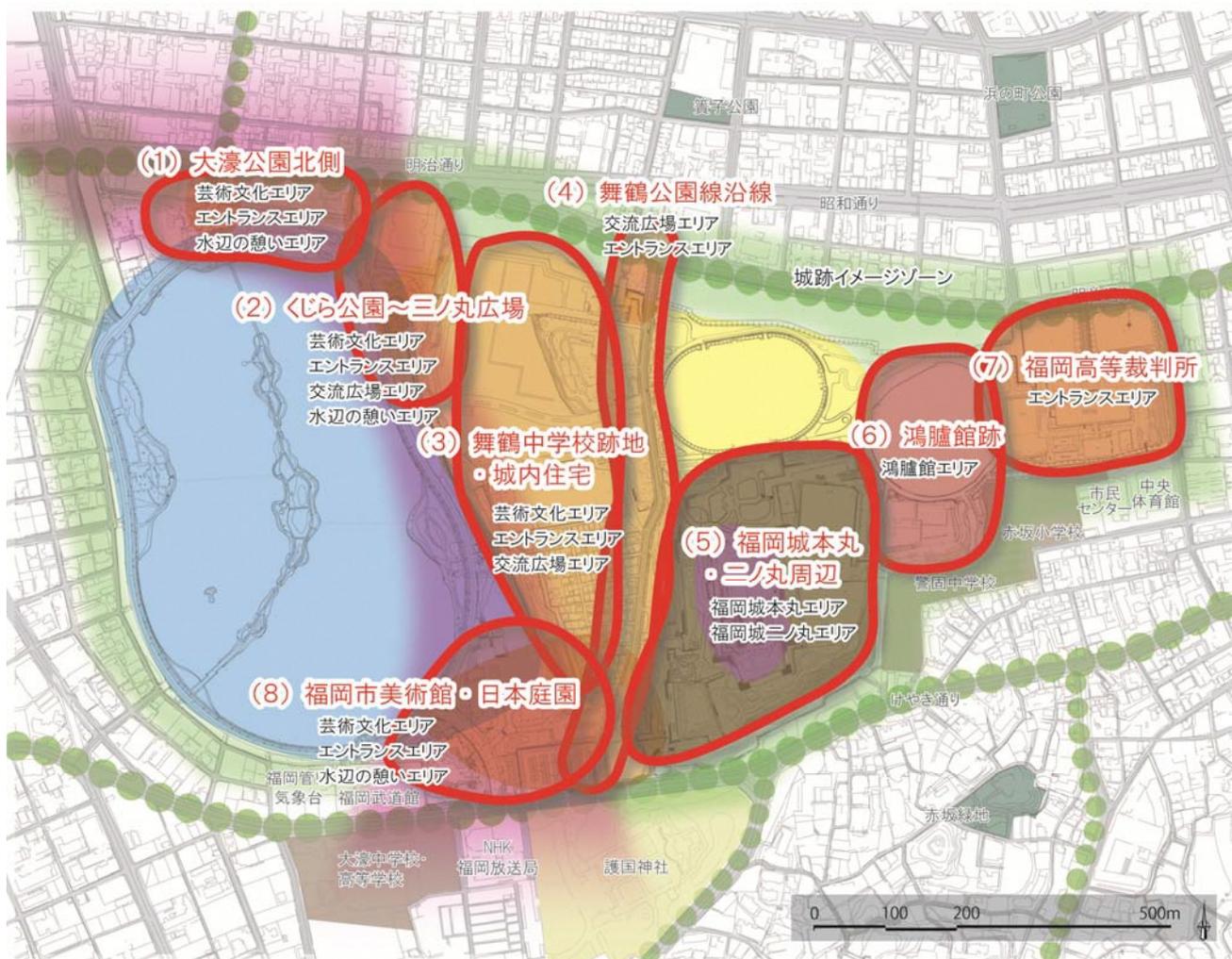
西公園や南公園などの緑の拠点や、天神や大名、六本松等の都心部の核・拠点間を緑でつなぎ回遊性を強化することで、大濠公園と舞鶴公園の水と緑豊かな雰囲気や、歴史と芸術文化の香りが公園の外にも広がりを見せ、福岡の都市自体が公園の中にあるように感じられるよう、周辺地域における整備の展開イメージを整理します。



3. エリア整備計画

両公園において、重点的な整備が求められる範囲や施設について、ゾーニングに基づく各エリアの特性を踏まえながら、課題や整備の方向性、内容について整理します。

- (1) 大濠公園北側
- (2) くじら公園～三ノ丸広場
- (3) 舞鶴中学校跡地・城内住宅
- (4) 舞鶴公園線沿線
- (5) 福岡城本丸・二ノ丸周辺
- (6) 鴻臚館跡
- (7) 福岡高等裁判所
- (8) 福岡市美術館・日本庭園



図：重点エリア整備計画図

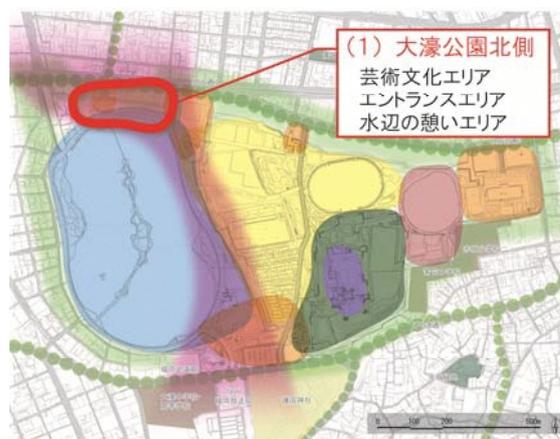
※上記エリア以外にも随時必要な整備を行っていくものとする。

(1) 大濠公園北側

○位置づけ

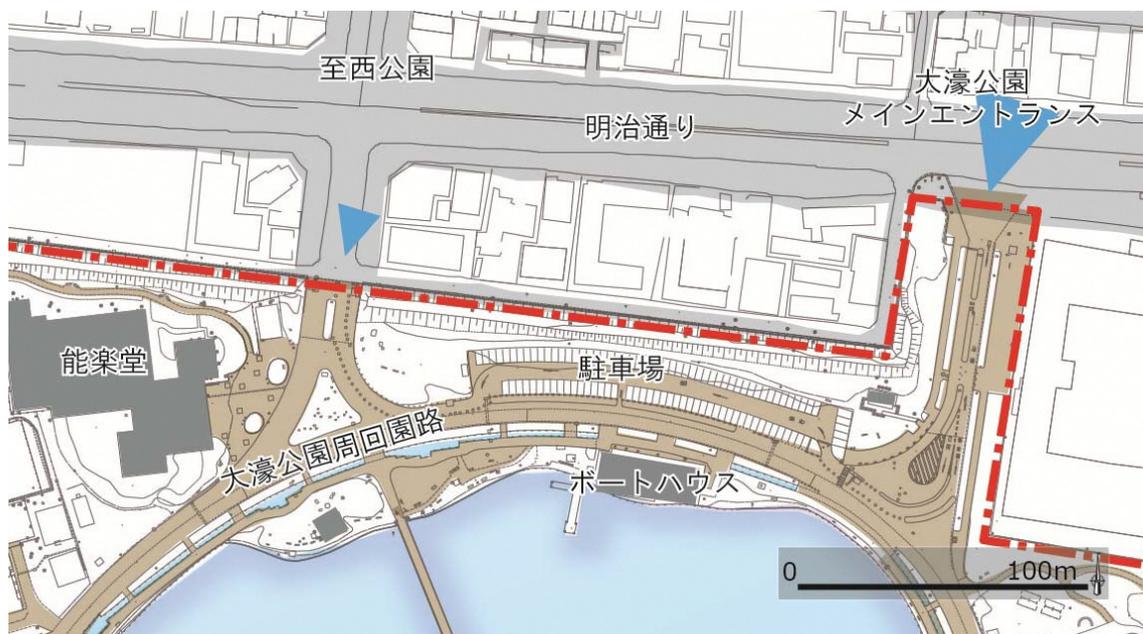
大濠公園北側は、地下鉄大濠公園駅から近く、明治通り側からのメインエントランスとして歩道や駐車場などが整備されています。芸術文化エリア、エントランスエリア、水辺の憩いエリアが重なる場所に位置しています。

北西側の入口は、能楽堂利用者が利用する入口にもなっています。



図：大濠公園北側 位置図

○現況と課題



図：大濠公園北側 現況図

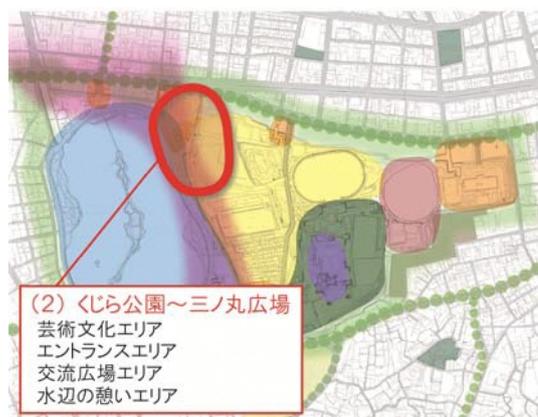
- 安全性の向上**：メインエントランスの車両動線と歩行者動線が交錯する箇所があるため、車両動線と歩行者動線の整理が求められます。
- 見通しの確保**：メインエントランスから公園内部の様子が見えにくい為、見通しの確保が求められます。
- 景観の向上**：大濠公園の周回園路利用者から駐車場が見えるため、公園らしさに配慮した景観の向上が求められます。

(2) くじら公園～三ノ丸広場

○位置づけ

くじら公園から三ノ丸広場周辺は、大濠公園と舞鶴公園の境界部に位置し、両公園の一体的活用を図っていく上で重要な場所です。

両公園をつなぎ、芸術文化エリア、エントランスエリア、交流広場エリア、水辺の憩いエリアの4つのエリアが重なる場所に位置しています。



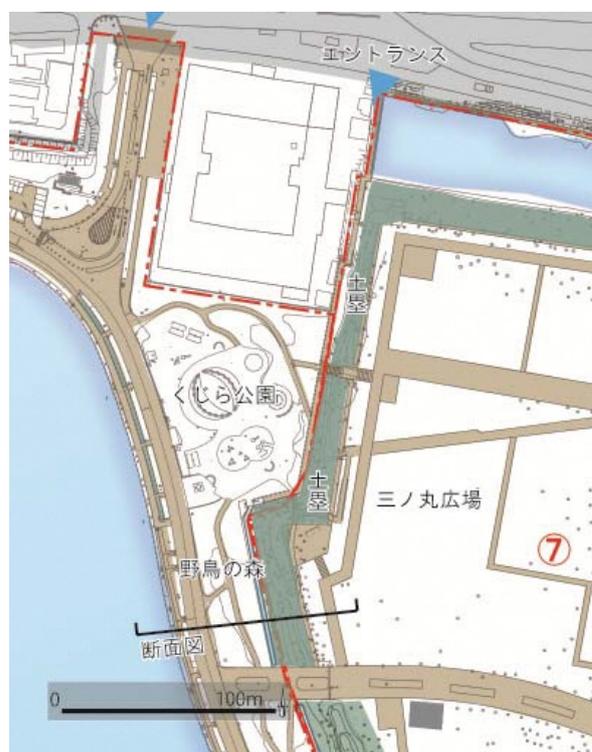
図：くじら公園～三ノ丸広場 位置図

○現況と課題

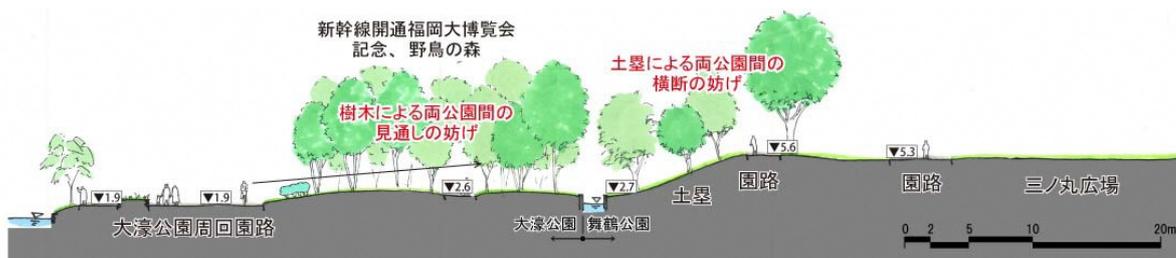
●**土塁の保存**：風雨等による土塁の土砂流出や歩行者の踏圧などによりき損している箇所が多く見られるため、土塁の保存が求められます。

●**両公園の空間的な一体化**：両公園の境界部は、土塁による高低差（5 m程度）と土塁上の樹木等によって公園間の動線や見通しが遮られています。両公園の一体的活用を図っていくためには土塁周辺部の空間的な一体化が求められます。

●**くじら公園の遊具の保存と更新**：くじら公園に設置されている大型遊具は子供連れの来訪者への人気が高く、公園のシンボルの一つとなっています。そのため既存遊具の適切な管理と老朽化に合わせた更新が求められます。



図：くじら公園～三ノ丸広場 現況図



○整備の方向性

a)土塁の保存と顕在化

- ・今後の発掘調査や文献調査等に基づき、本来の土塁の形状などを把握し、そのうえで覆土による土塁の保存と顕在化など、本質的価値を伝えるための適切な手法を検討します。

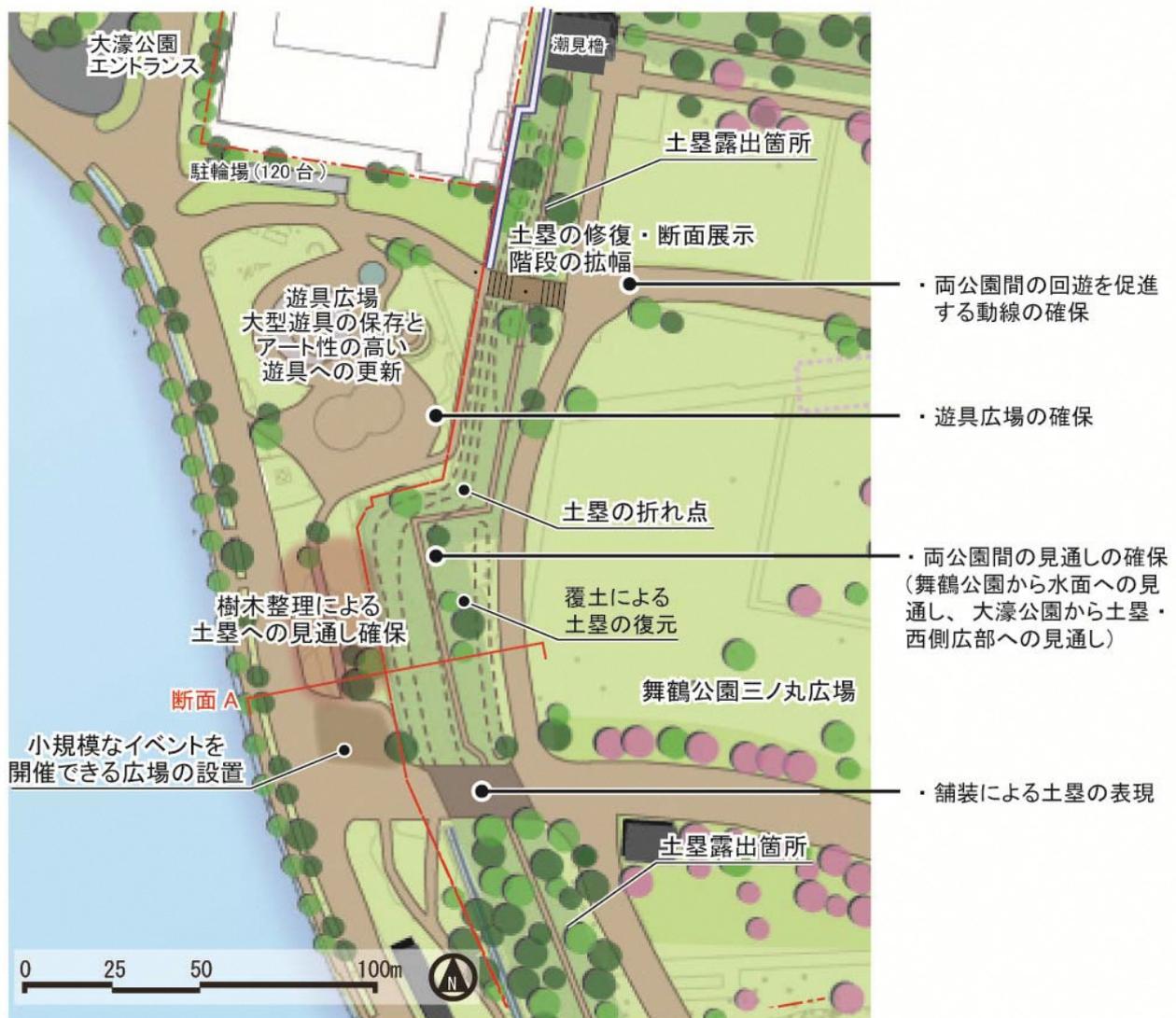
b)両公園の空間的な一体化

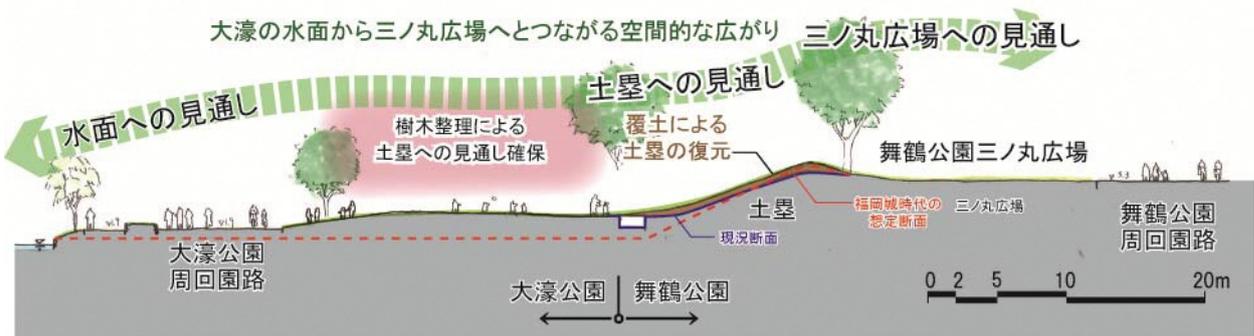
- ・既存樹木の整理を行い、両公園間の見通しを確保します。

c)遊具の保存と更新

- ・適切な維持管理による大型遊具の保存とともに、その他の遊具については老朽化に合わせて芸術性の高い遊具への更新を行います。

○整備計画





図：断面 A イメージ図



仮

(3) 舞鶴中学校跡地・城内住宅

○位置づけ

舞鶴中学校跡地・城内住宅では、既存の関連計画の中で、移転跡地を活用した広場整備や、暫定駐車場の設置、福岡城の地割の表現などが謳われています。

芸術文化エリア、エントランスエリア、交流広場エリアが重なる場所に位置しています。



図：舞鶴中学校跡地・城内住宅 位置図

○現況と課題

城内住宅については、引き続き城外への移転推進が求められます。舞鶴中学校跡は、移転跡地を有効に活用するとともに、城内住宅移転完了のタイミングとの調整を踏まえた施設の撤去が求められます。また、移転跡地では福岡城の全容解明に向けた発掘調査が求められます。



①舞鶴中学校跡



②タイムズ福岡城三ノ丸駐車場



③三ノ丸スクエア



④第2駐車場



⑤城内住宅跡地



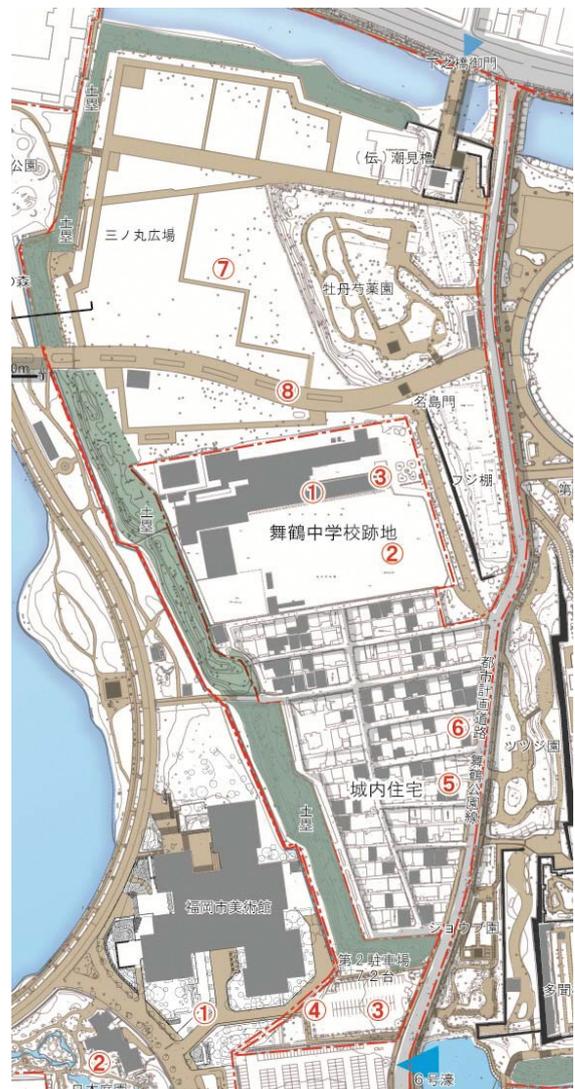
⑥城内住宅



⑦三ノ丸広場



⑧園路



図：舞鶴中学校跡・城内住宅 現況図

○整備の方向性

a)広場空間の確保

- ・大規模なイベントにも対応できる、開放的な広場空間を確保します。

b)地割の表現

- ・公園利用者の動線に配慮しながら、舗装や縁石などで福岡城の地割を表現します。

c)暫定駐車場の確保

- ・大型の観光バスも駐車することができる暫定駐車場を確保します。なお、駐車場は将来的には史跡地外に確保することを原則とします。

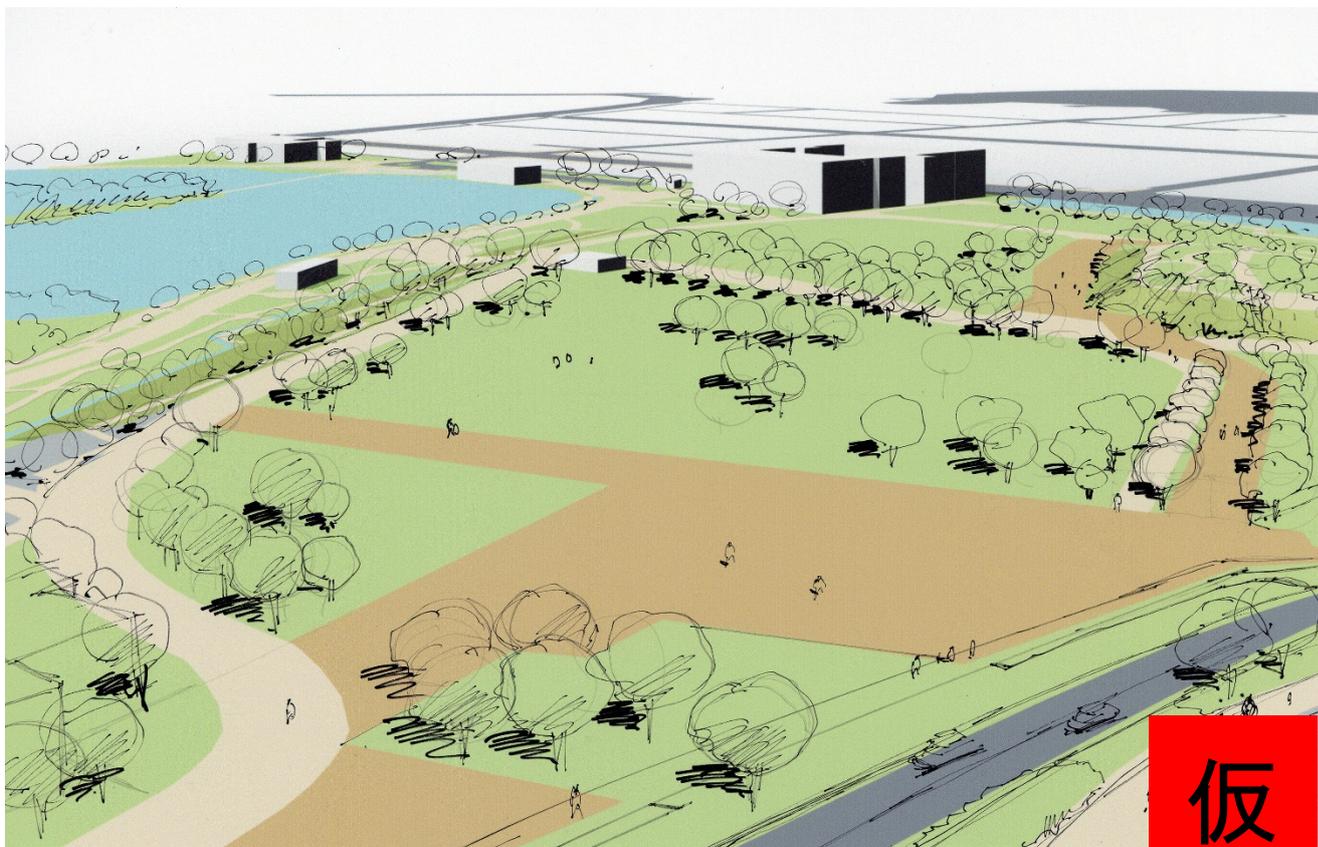
d)サクラの名所づくり

- ・遺構などに物理的・視覚的に影響の少ない箇所を選び、サクラを植えることで名所づくりを進めます。



図：福岡城絵図と現在の地形の重ね図

○整備計画





項目	現況※ (台)	計画条件 (台)	検討値 (台)
乗用車	72	140	140
(うち身障者)	-	2	2
大型バス	-	10	10
自転車	-	120	120

※舞鶴公園第2駐車場の台数

- ・ 移転跡地を活用した交流広場の確保
- ・ 様々なイベントに対応できる設備の整備
- ・ 大濠の水面への見通しを確保
- ・ 交流広場から石垣への見通しの確保

- ・ 舞鶴公園を周回できる園路の整備

- ・ 舗装による土塁の表現

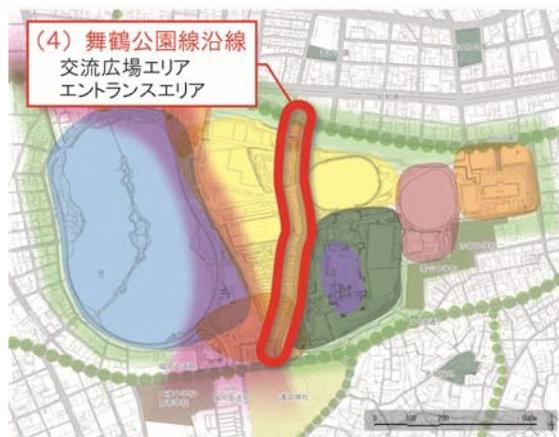
- ・ 駐車場(暫定)整備

- ・ サクラの名所としての花見広場

(4) 舞鶴公園線沿線

○位置づけ

交流広場エリアは都市計画道路舞鶴公園線により分断されています。大濠公園と舞鶴公園の一体的活用を図り、一体的な交流広場エリアの雰囲気を作っていくためには、舞鶴公園線を横断する回遊動線の確保が重要となります。また、舞鶴公園線沿線の北側と南側はエントランスエリアと重なっており、これらのエントランスエリアと、芸術文化エリアや福岡城二ノ丸エリア、交流広場エリアなどを縦につなぐ回遊動線の確保も重要です。



図：舞鶴公園線沿線 位置図

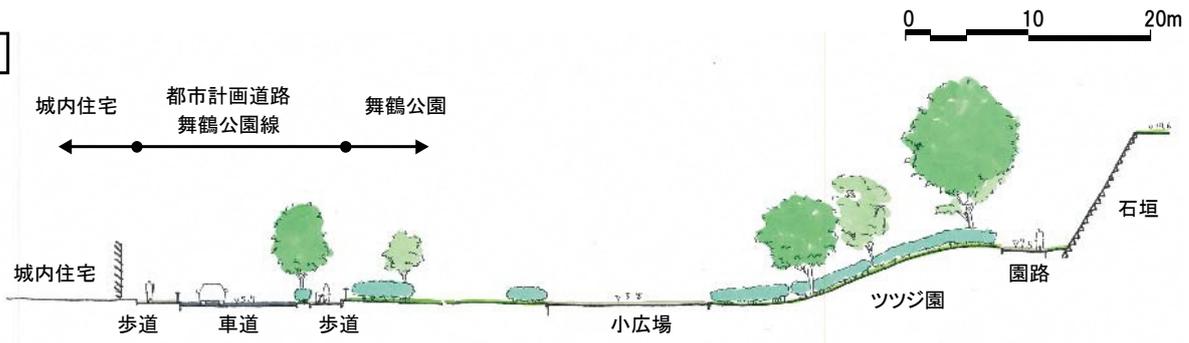
○現況と課題

- 回遊性強化**：現在舞鶴公園線を横断する動線として横断歩道が設置されていますが、公園利用者の動線とは合わない位置となっています。また、城内住宅等により舞鶴公園線と並走する動線は確保できていない状態です。舞鶴公園線を横断する動線と、並走する動線の強化が求められます。

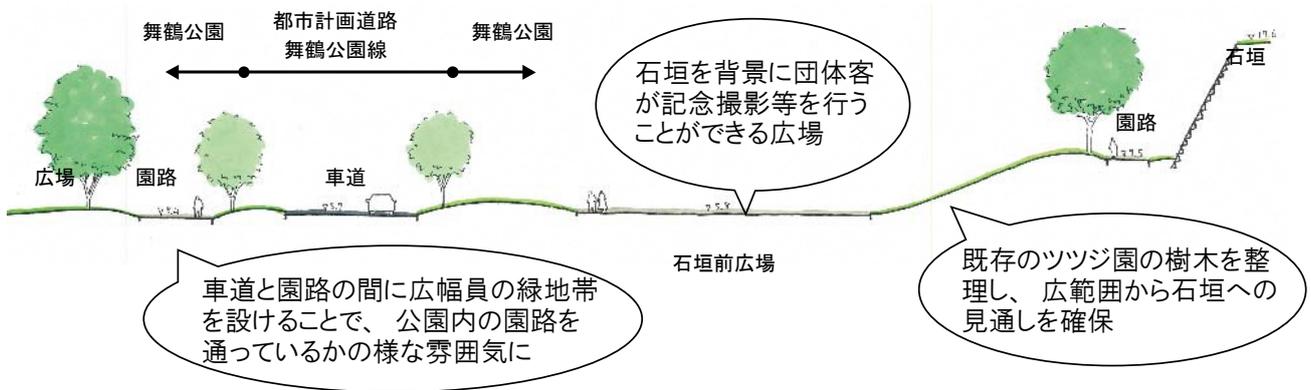


図：舞鶴公園線沿線 現況図

現況



計画



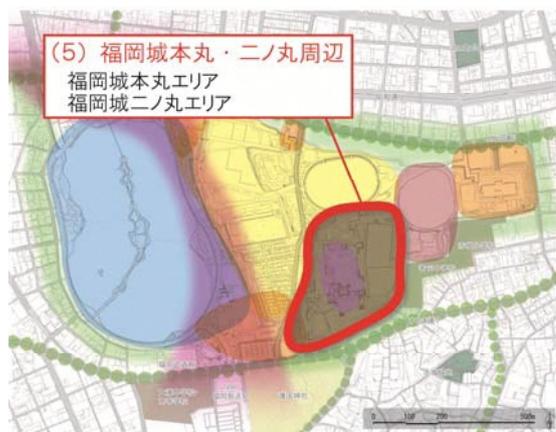
仮



(5) 福岡城本丸・二ノ丸周辺

○位置づけ

福岡城本丸・二ノ丸周辺を含め、舞鶴公園全体として、福岡城跡に関わる整備検討は、平成26年6月に策定された「国史跡福岡城跡整備基本計画」をもとに進めます。ここでは、福岡城本丸・二ノ丸周辺について、「国史跡福岡城跡整備基本計画」に示された内容を基に整備の方向性や整備計画を整理します。

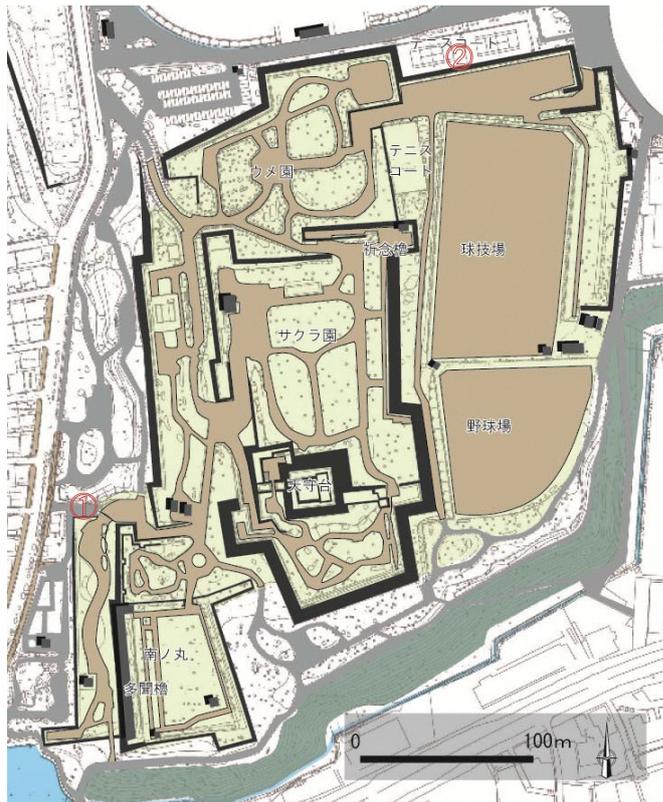


図：福岡城本丸・二ノ丸周辺 位置図

○現況と課題

分類	整備上の課題および留意点
歴史的環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下遺構の残存状況の把握。 ・ かつて九州を代表する城郭（47以上の櫓、10を超える門）であったことが、理解できる整備の実現。 ・ 石垣の傷みや不安定箇所、消失箇所の改善。 ・ 城絵図で描かれた階段（東御門内、扇坂御門内、松木坂御門内）や庭園等(水の手)の存在が理解できる整備の実現。
自然的環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名所化した公園樹木（サクラ等）と歴史的景観復元に向けた整備との方向性の調整。 ・ 石垣内に自生した高木による遺構保存への影響回避。 ・ 多数植えられた外来種の適切な処置。
社会的環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化した展望施設の更新。 ・ 史跡巡りに配慮した便益施設の効果的な配置やユニバーサルデザイン化への見直し。 ・ 史跡に関連のない施設等の移転の推進。
景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木（高木～低木）の生育により遮蔽された建造物や石垣の顕在化。

※「国史跡福岡城跡整備基本計画」より



①多聞櫓・平櫓西側



②東御門

図：現況図

○整備の方向性

a) 城郭としての景観づくり

- ・石垣や櫓等の城郭景観を伝える遺構への見通しを確保します。
- ・当初は直線で構成されていたと考えられる地割を表現します。
- ・真正性を確保できる遺構の修復・復元を積極的に進めます。

b) 城郭景観の保全

- ・本丸、二ノ丸の二つの郭を取り込んだ範囲を設定する。
- ・城郭としての景観が最も遺存しており、景観保全の面や現在の利用形態からも一体的な保存整備が可能なゾーンとなることが期待される。

⇒歴史的建造物や庭園等の復元整備、石垣の保存・修景に努め、城郭としての景観保全を重視した整備を行う。

※b) は、「国史跡福岡城跡整備基本計画」で推進

○整備計画



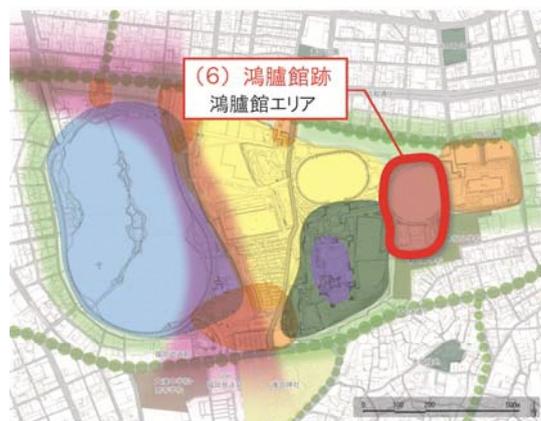
仮



(6) 鴻臚館跡

○位置づけ

平成 27 年 3 月に「鴻臚館跡整備基本構想」が策定され、現在「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」の策定が進められています。鴻臚館跡の史跡指定範囲内の具体的な整備内容は「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」で検討を行うこととします。

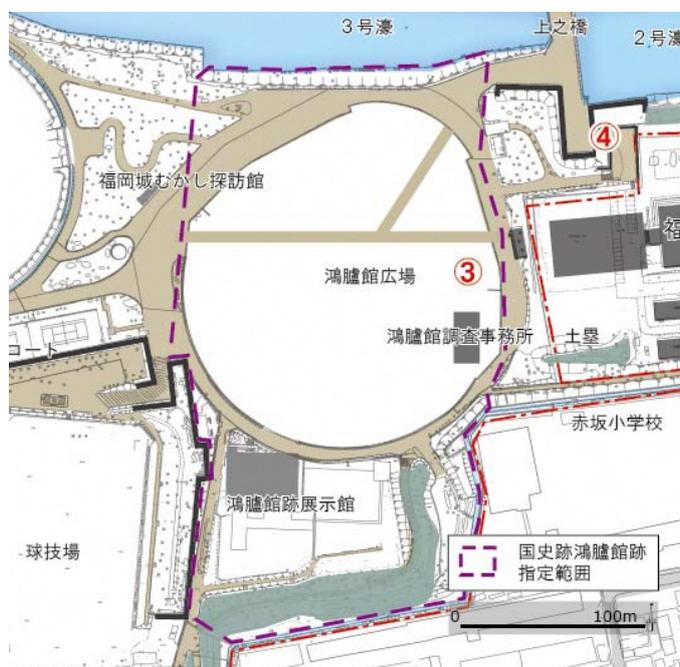


図：鴻臚館跡 位置図

○現況と課題

- ・ 継続的な調査の計画や体制
- ・ 本質的価値をどのように顕在化させるか
- ・ 鴻臚館が存続した時代を体感できる空間づくり
- ・ 福岡城跡と調和した景観づくり
- ・ 公園としての機能や景観に配慮した歴史的観点からの検討
- ・ 「歴史の重層性」を語る場としての理解を深める保存・整備の検討
- ・ わかりやすい情報発信
- ・ 史跡地のマネジメントへの積極的な市民参加

※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」(策定中)より



図：鴻臚館跡 現況図

○整備の方向性

a) 鴻瀧館跡の価値の保存・継承と効果的な情報発信

- ・ 鴻瀧館の全容解明に向け、その価値を明らかにしながら保存・継承を確実にする措置を図っていくことを前提にするとともに、効果的な情報発信を併せて行う。

b) 歴史の重層性の実感できる表現

- ・ 遺構展示等により鴻瀧館を理解し、実感できるようにすることに加え、福岡城や近現代の施設群についても、この場所の歴史の重層性の理解と実感ができる表現を目指す。

c) サイトミュージアムと都心部の貴重なオープンスペースの融合

- ・ サイトミュージアムの一翼を担えるよう、多様なニーズに対応できるオープンスペースとしての活用を視野に入れた整備を目指す。

d) 国際交流空間としての機能の再生

- ・ 福岡の新たな交流空間としての活用や観光交流コアとなるよう、かつて鴻瀧館が有していた交流空間としての機能を現代的に見直す。

e) 古代官道がつかない関連史跡等との広域ネットワーク連携

- ・ 古代官道を介した関連史跡とのつながりを史跡ネットワークとして強化し、広域観光への展開も視野に入れた活用を目指す。

f) 多くの来訪者が繰り返し利用し続けることのできる空間の創出

- ・ 来訪者と価値観の共有を図るため、多くの来訪者が利用し続けることのできる空間を創出することを目指す。

※「国史跡鴻瀧館跡整備基本計画」(策定中)より

○整備計画



図：基本計画図（短期整備）

※「国史跡鴻瀧館跡整備基本計画」(策定中)より

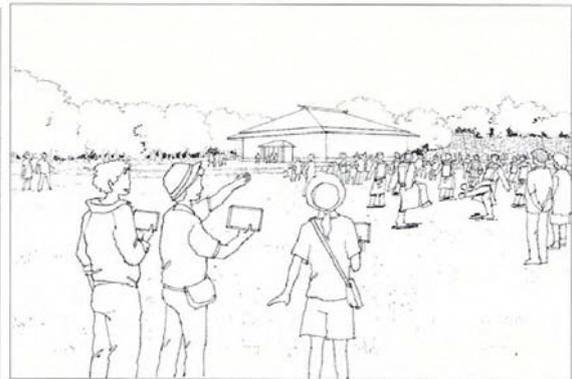


図：基本計画図（中長期整備） ※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」（策定中）より



図：短期整備イメージ図

※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」（策定中）より



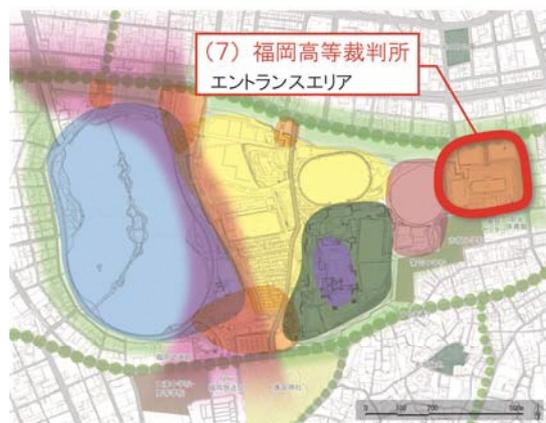
図：中長期整備イメージ図

※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」（策定中）より

(7) 福岡高等裁判所

○位置づけ

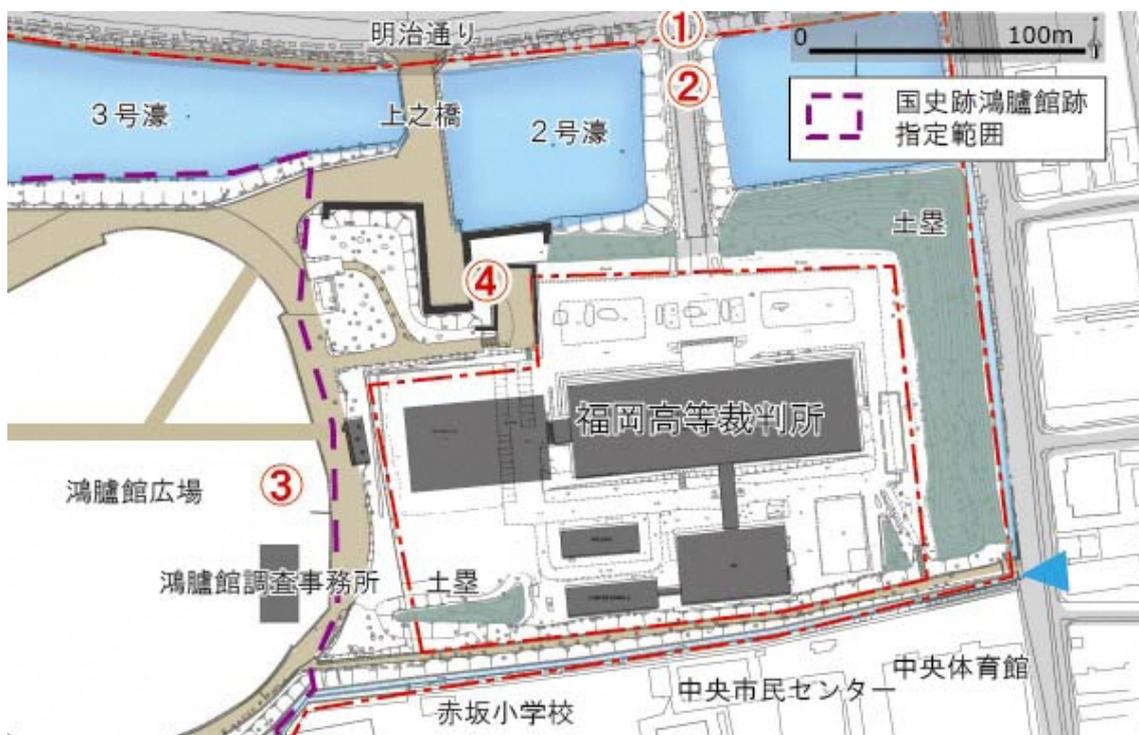
福岡高等裁判所は博多・天神方面からの公園への入口にあり、エントランスエリアと位置付けています。鴻臚館跡に関連する遺構が地下に残っていることが想定されている場所であるため、高等裁判所跡の解体後にはまず、発掘調査を行うこととしています。そのため、計画の具体的な内容については発掘調査による遺構などの検出状況を考慮した上で、再度検討することとします。



図：福岡高等裁判所 位置図

○現況と課題

福岡高等裁判所については、六本松で新庁舎の整備が進められています。施設移転後には、建物の解体のタイミングと調整を図ったうえで、鴻臚館跡や福岡城跡の全容解明に向けた発掘調査が行われます。



図：福岡高等裁判所 現況図



①明治通り側より



②高等裁判所入口



③鴻臚館広場側より



④上之橋御門跡

○整備の方向性

a)総合案内施設の配置

- ・来園者が古代から現代まで連なる福岡の歴史の概要をエントランスエリアで学んでから現地を散策することができるよう、(仮称)セントラルパーク総合案内施設を設けます。

b)地割の表現

- ・上之橋御門からの歩行者動線を舞鶴公園へのメインエントランスとして捉え、福岡城の地割を表現します。

c)暫定駐車場の確保

- ・大型の観光バスも駐車することができる暫定駐車場を確保します。なお、駐車場は将来的には史跡区域外に確保することを原則とします。

d)安全安心を支える防災拠点としての機能確保

- ・災害時の博多・天神方面からの避難者の受け入れに備え、避難スペースや避難路、災害時に必要な設備の確保を図ります。

e)テニスコートの暫定整備

- ・現在、テニスコートは石垣の目の前に位置しているため、景観的に影響の低い場所に再配置します。なお、将来的には史跡区域外に確保することを原則とします。

○整備計画



項目	計画条件 (台)	検討値 (台)
乗用車 (うち身障者)	260 4	260 4
大型バス	18	18
自転車	120	120

(8) 福岡市美術館・日本庭園

○位置づけ

福岡市美術館・日本庭園は園路を挟んで隣接しており、芸術文化エリアの中でも芸術文化施設が集中した場所に位置しています。また、この位置は大濠公園への北側からのメインエントランスでもあります。

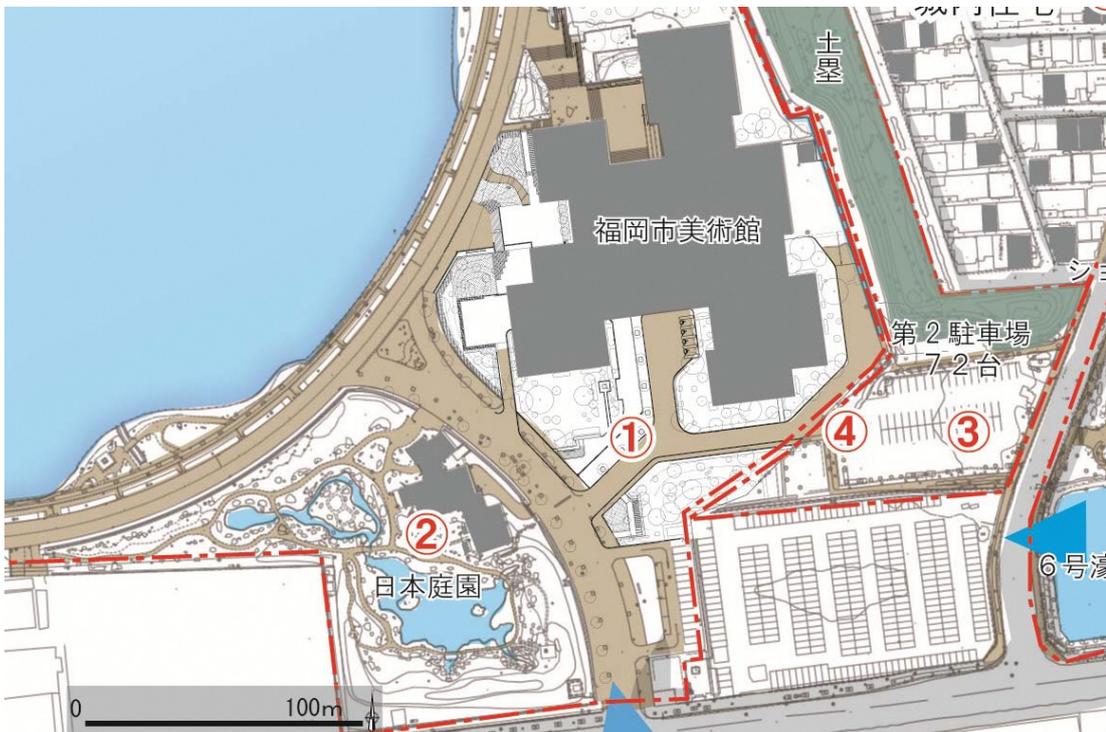
芸術文化の雰囲気施設内にとどまらず、周辺へと広がりを見せるためには、施設自体の魅力向上やアプローチのしやすさの向上が重要です。



図：福岡市美術館・日本庭園 位置図

○現況と課題

- アプローチの改善**：福岡市美術館へのアプローチは、現状では、大濠公園の周回園路からと、南側の園路から、東側の舞鶴公園第2駐車場からの3方向から可能ですが、出入口が見えにくくなっています。
- 施設の魅力向上**：福岡市美術館と日本庭園は、大濠公園の周回園路から入口が奥まった位置にあるため、その存在が分かりにくい状態になっています。



図：福岡市美術館・日本庭園 現況図



①福岡市美術館



②日本庭園



③舞鶴公園第2駐車場



④福岡市美術館から多門櫓方向への眺め

○整備の方向性

a)アプローチのしやすさの向上

- ・舞鶴公園第2駐車場の移転跡地を活用し、舞鶴公園線から福岡市美術館にアプローチできる園路を設けます。

b)施設の認知度の向上

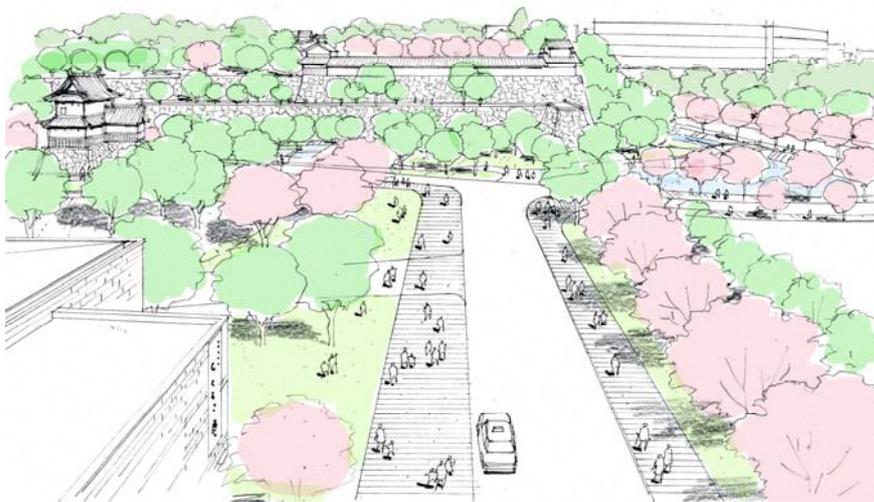
- ・大濠公園の周回園路側から福岡市美術館や日本庭園の存在を感じ取ることができるような雰囲気作りを行います。また、日本庭園と親和性の高い便益施設の設置を周回園路周辺で検討することで、サービスの向上と合わせた認知度の向上を図ります。

○整備計画



- ・福岡市美術館のリニューアル
(老朽箇所の改修、ユニバーサルデザインに対応、常設展示室・収蔵庫・市民ギャラリーの拡充、情報コーナー・多目的スタジオの設置等)

- ・舞鶴公園第2駐車場の跡地を活用した、舞鶴公園線からのアプローチ動線の設置



図：舞鶴公園線から福岡市美術館へのアプローチイメージ



図：福岡市美術館のリニューアルイメージ

4. 全体平面図

全体平面図は、セントラルパーク構想（H26.6策定）
 における構想図を具体化したものです。



※印は暫定施設

5. セントラルパーク構想における将来像のイメージ



※鴻臚館跡の具体的な内容は、「鴻臚館跡整備基本構想」にて検討